

調査結果及び分析

【①基本属性】

今回の調査対象は、男性よりも女性がわずかに多く、年齢では、30代と40代が中心の構成となった。回答者の国籍は、ブラジル国籍者が9割以上を占めた。回答者の日系世代では2世がもっとも多く、ついで3世であった。在留資格では、回答者の半数近くが永住資格を保持していた。永住資格を持たない者に、永住資格取得の意思をたずねても、その多くが永住資格取得の意思があると答えた。外国人登録の場所では、浜松市がもっとも多く、ついで磐田市であった。現在の居住地と外国人登録との一致・不一致については、一致していないという回答が1割近くを占めた。

世帯人数は、3から4人世帯がもっとも多く、世帯構成では、配偶者や子どもとの同居率の高さがうかがえた。婚姻状況では、有配偶者が8割近くと回答者の多くを占め、そのうち、2から3人の子どもと同居する人が、回答者の世帯構成の中心をなしている。

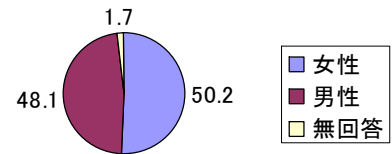
初来日年は、1990年から91年という回答がもっとも多く、回答者のほぼ半数が初来日時に静岡県に居住していた。日本での通算滞在年数については、10年未満でちょうど5割を占め、10年以上も半数近くとなっている。なかでも15から17年がもっとも多く、全体の4分の1を構成している。静岡での滞在年数は、日本滞在年数よりもやや短く、6から7年が中央値となっているし、2年以下の短期滞在者の比率が高い。来日回数では、4割が1回と回答するが、3回以上来日経験のある者も2割程度存在する。現住地への転入時期では、ここ2、3年で現住地に転入してきた者がもっとも多かった。以前の居住地では、現在と同じ市内という回答が半数を超えていた。日本での転居回数については3回がもっとも多く、1から4回に回答が集中していた。これらの情報を勘案すると、日本での滞在年数と比較して、日系ブラジル人の現住地での居住年数は短く、地域移動が頻繁に行われているようだが、県を越えて地域移動を行う者は、予想していたほど多くないこともうかがえた。住居形態では、会社の社宅等に居住する者がもっとも多く、ついで公営住宅、自分で契約した民間アパートという回答であった。持ち家比率はほぼ1割となっている。

本人と配偶者のブラジルでの最終学歴は、両者ともほぼ同様の傾向であり、普通科の中等学校がもっとも多く、全体のおよそ3分の1、小中学校が4分の1程度であった。本人と配偶者の日本での最終学歴は、学歴なしが本人、配偶者ともに8割以上を越えた。成人を対象に調査を行う場合、日本で学歴を獲得したブラジル人は、まだまだ少数派にすぎないことがわかる。

1 あなたの性別は

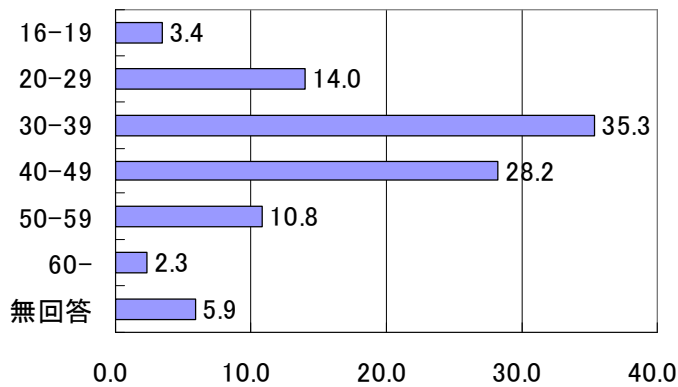
図 性別

調査対象者の性別は、女性がわずかに多く 50%、男性が 48%であった¹。



2 あなたの年齢は

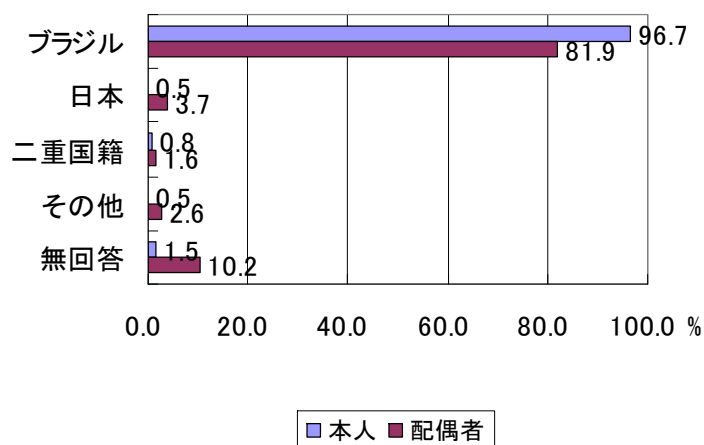
図 年齢



回答者の年齢構成は、30代がもっとも多く 35%、ついで 40代の 28%である。20代の 14%と 50代の 11%と続く。

3 あなたとあなたの配偶者の国籍を教えてください。

図 本人 (N=1922) と配偶者 (N=1461) の国籍

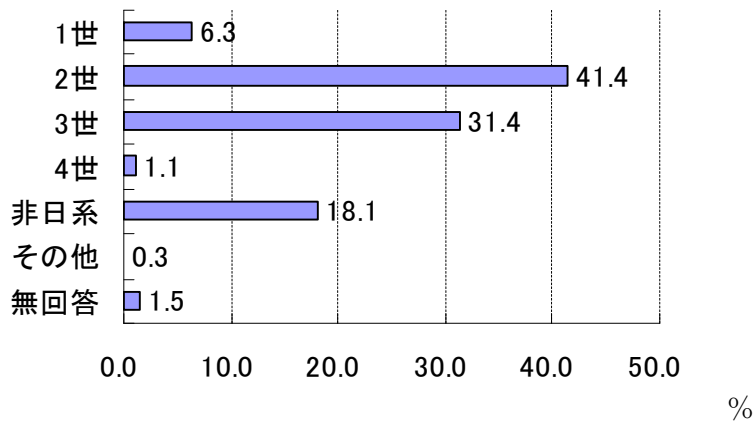


回答者本人とその配偶者の国籍についてたずねた。本人については、ブラジル国籍が非常に多く、回答者の 97%以上を占める。配偶者の場合は、その比率は 80%程度に低下し、日本国籍や二重国籍という回答は、本人よりも多くなっている。

¹ 基本的に以下に示すパーセントは、その分母として、有効回収総数である 1922 を用いて計算している。有効回収総数を分母にしない場合、そのつど、分母の元になっているサンプル数を表示する。本文中のパーセント表記では、小数点第一位を四捨五入した数字で記す。

4 あなたは日系何世ですか

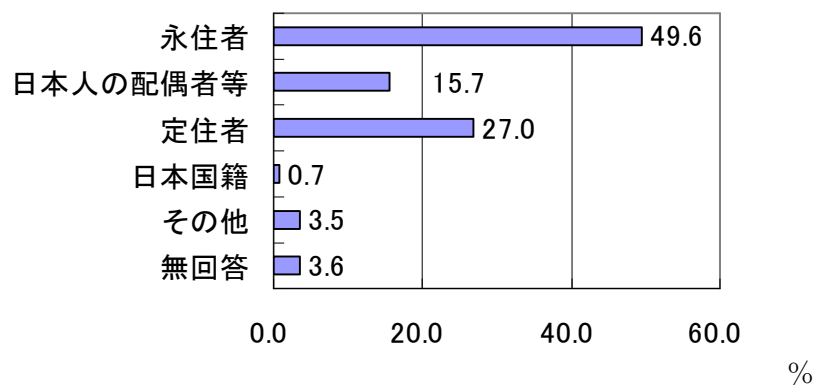
図 回答者は日系何世か



回答者は、2世が41%と最も多く、ついで3世の31%である。非日系の回答者も多く、2割近くを構成している。

5 あなたの在留資格についておうかがいします

図 在留資格

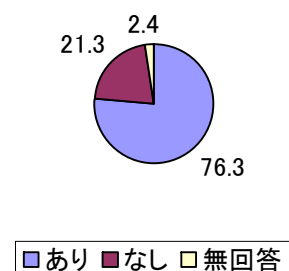


在留資格についてたずねると、永住者が最も多く 50%であった。ついで定住者の 27%、日本人の配偶者等が 16%であった。学校経由でも調査を行ったものの、日本国籍は少なく 0.7%であった。

6 あなたは永住資格の取得を考えていますか

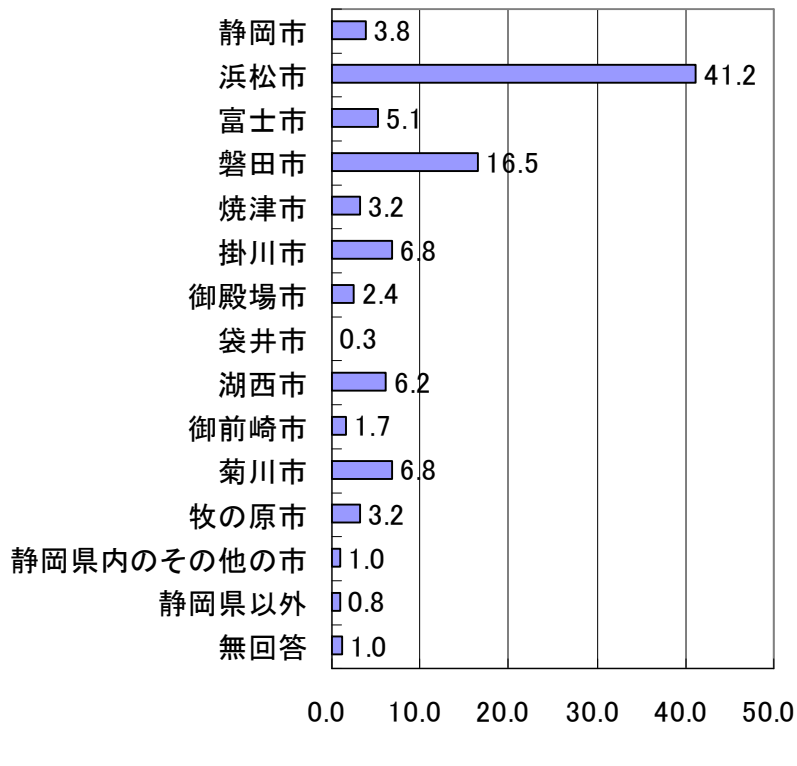
図 永住資格取得の意思 (N=886)

問 5 で、「日本人の配偶者等」「定住者」「その他」と回答した人に限定して、永住資格取得の意思についてたずねたところ、「あり」という回答が回答者の 4分の3 を占め、「なし」という回答を大きく上回った。



7 あなたが、現在、外国人登録をしているところはどこですか

図 外国人登録の場所 (N=1922)

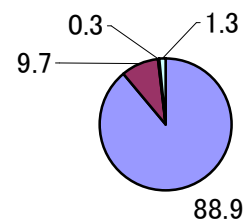


回答者の外国人登録の場所についてたずねたところ、回答者の居住構成を反映して、浜松市がもっとも多く 41%、ついで磐田市の 17%となった。その他については、回答が非常に分散する結果となっている。静岡県以外という回答も一部で見られ、0.8%であった。

8 現在の居住地と、あなたが外国人登録をしているところは同じですか

図 居住地と外国人登録との一致 (N=1922)

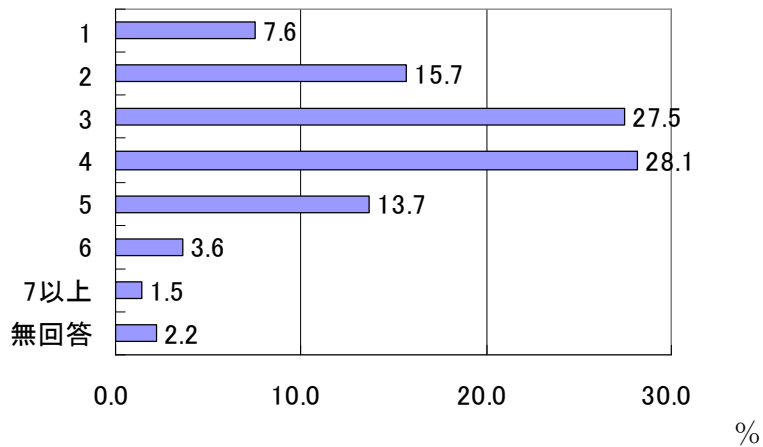
外国人登録の場所に加えて、現在の居住地と外国人登録との一致・不一致についてたずねた。その結果、一致しているという回答が 89%と多数を占めていることがわかった。しかし、居住地と登録地とが一致していないという回答も 1割近くを占めていることがわかる。



■ 同じ ■ 違う □ 日本国籍 □ 不明・無回答

9 あなたを含めて、現在、あなたの世帯に住んでいる人は全部で何人ですか

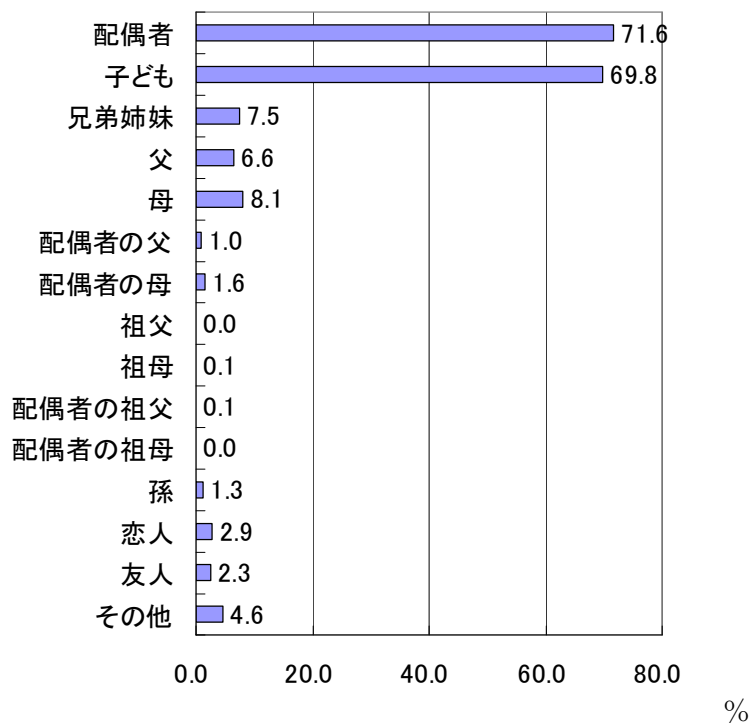
図 世帯人数



世帯人数については、3人と4人が多くを占め、それぞれほぼ28%であった。1人という単身世帯はそれほど多くなく、8%にとどまっている。

9-1 現在、あなたと一緒に住んでいる人すべてに○をつけてください

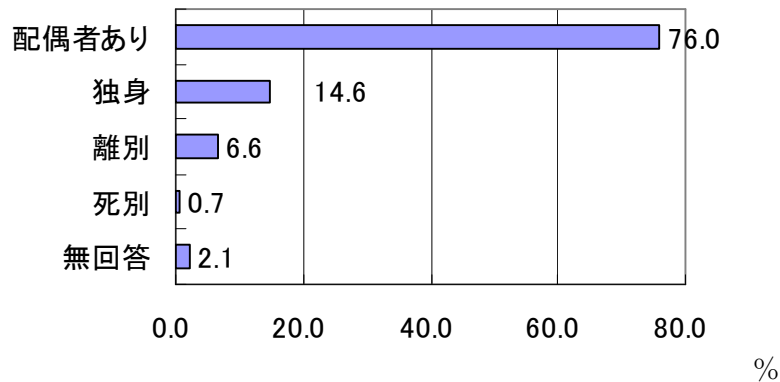
図 世帯構成



回答者の世帯構成についてたずねたところ、配偶者や子どもと同居している回答者がおよそ7割を占めることがわかる。他方で、それ以外の親族との同居率は低くなっている。父、母との同居率は、それぞれ7%、8%であり、兄弟姉妹との同居も8%である。配偶者の両親や祖父母との同居、孫との同居も1%かそれ以下と非常に低くなっている。恋人や友人との同居率も2から3%程度である。

9-2 現在のあなたの配偶状況についてお聞きします

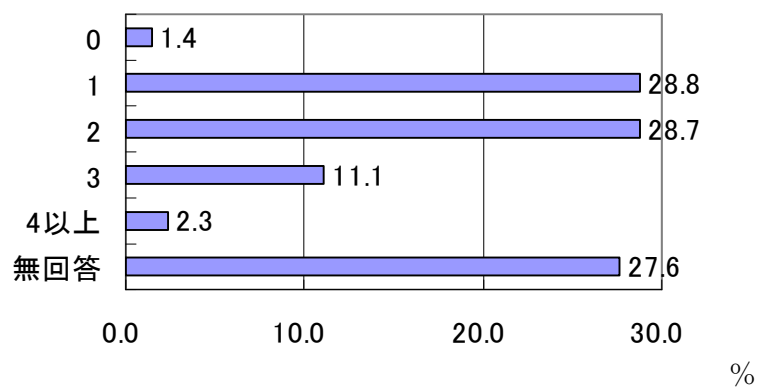
図 配偶状況



回答者の配偶状況についてたずねたところ、配偶者ありという回答がもっとも多く 76%を占める。ついで独身の 15%で、離別者は全体の 7%であった。

9-3 お子さんがいらっしゃる方にうかがいます。同居している子どもの人数は

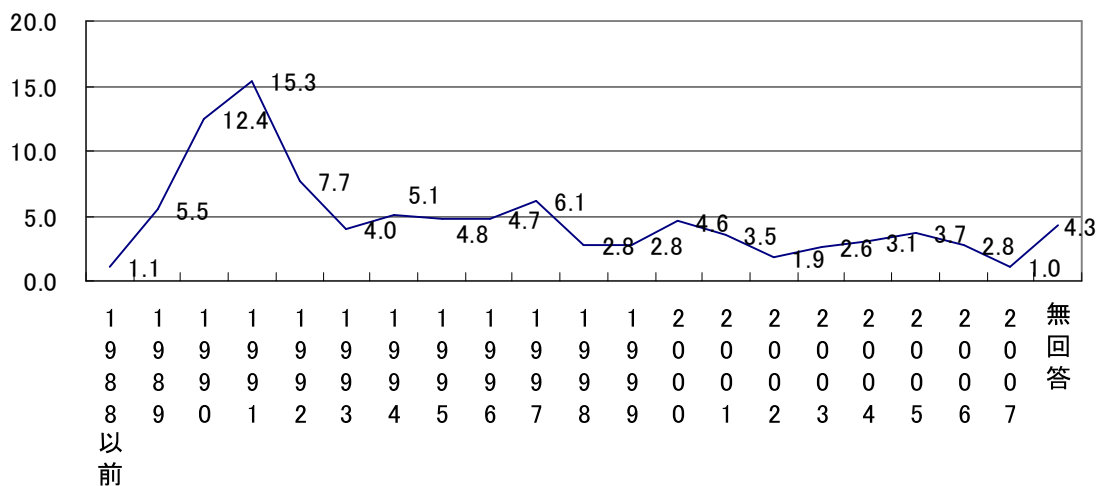
図 同居する子どもの数



同居子ども数についてたずねた。なお、パーセントの算出に際しては、サンプル全体を分母としている。そのため、無回答の中には、子どもをもたない人たちも含まれている。結果を見ると、子どもがいるという回答のなかでは、1人と2人がほぼ同数で、それぞれ 29%を占めている。3人は 11%で4人以上では 2%となっている。

10-1 あなたが初めて日本に来た年は

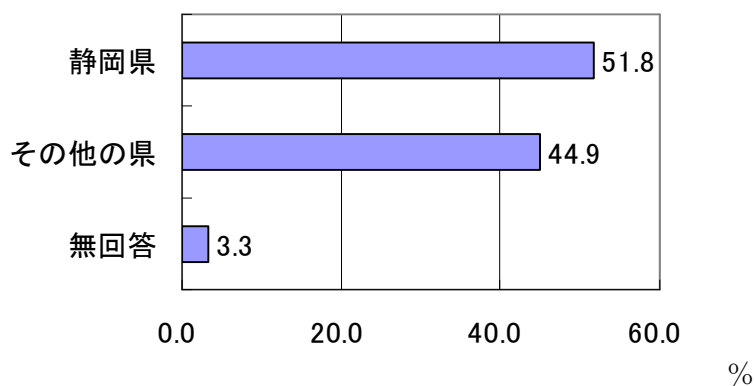
図 初来日年 (N=1911)



初来日年をたずねたところ、日本で生まれたという回答が 0.6%ほどみられた。日本で生まれた回答者を除いて、初来日年の分布をみてみた。1988 年以前に来日したというものは、非常に少ないが一定程度存在し、1%みられる。その後、1989 年に急激に上昇し、法律が改正された 1990 年と 1991 年にはじめて来日した者が、12%と 16%と非常に多いことがわかる。その後、減少傾向を示し、1993 年以降は、おおむね 5%前後を推移している。1998 年以降はさらに低下し、2000 年から 2001 年にかけてわずかに増加したものの、おおむね 3%前後を推移している。

10-2 あなたが初めて日本に来たとき、最初に住んだ場所はどこですか

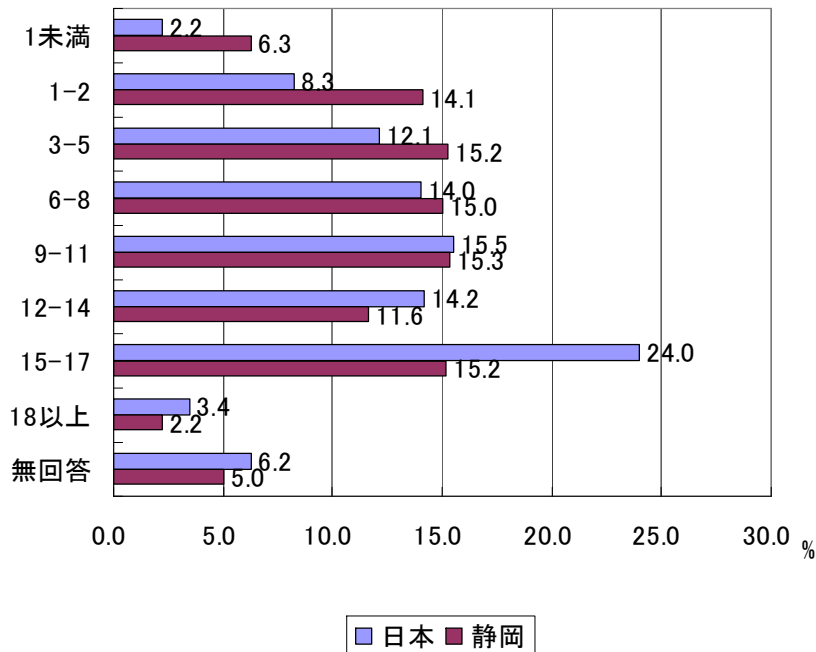
図 初来日時の居住地



初来日時の居住地についてたずねたところ、静岡県という回答が 52%と多く、ついでその他の県の 45%であった。

11-1 日本での通算滞在期間は 11-2 静岡での通算滞在期間は

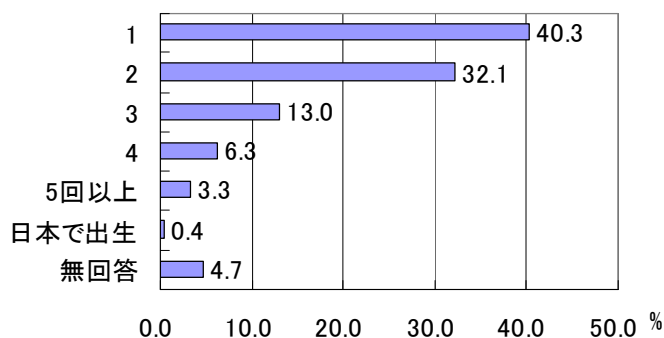
図 日本と静岡での通算滞在期間



日本での通算滞在年数をたずねたところ、15-17年がもっとも多く24%であった。この層は、1990年代初頭に来日し、その後一貫して日本に滞在している人たちだと解釈できる。それ以外については、3年から14年までほぼ同様に分布しており、9から11年で16%、6から8年と12から14年がそれぞれ14%となっている。他方で、静岡での滞在年数については、日本滞在年数よりもやや短い傾向が見られる。とりわけ、2年以下の短期滞在者の比率が顕著に高い。他県からの流入者を反映していると思われる。他方で、15年以上静岡に滞在する者も2割近く存在し、静岡県内での定住化傾向も顕著であるといえる。

12 今回で通算、何回目の来日ですか（クリスマス等、一時的な帰国をのぞく）

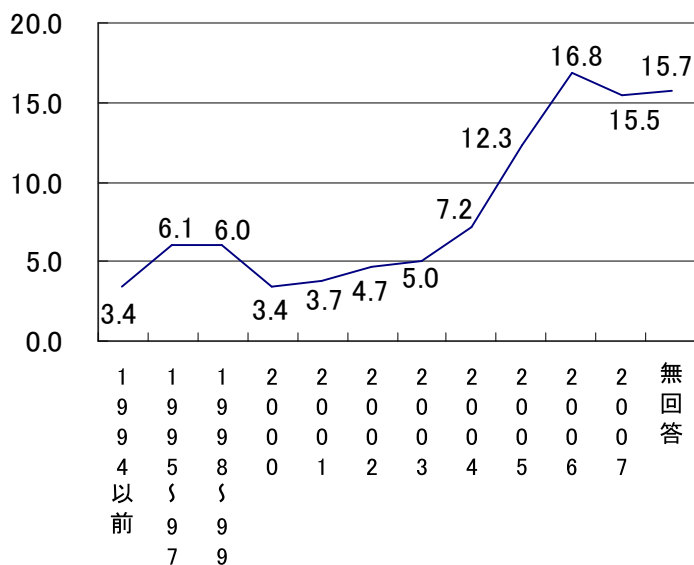
図 来日回数



来日回数についてたずねたところ、1回という回答がもっとも多く40%であった。2回が32%である。3回以上来日している、頻繁に国境を移動する人たちは、全体の2割程度であった。

13-1 日本での引っ越しの経験について、お聞きします。一番最近、今の居住地に引っ越してきたのは、いつですか。

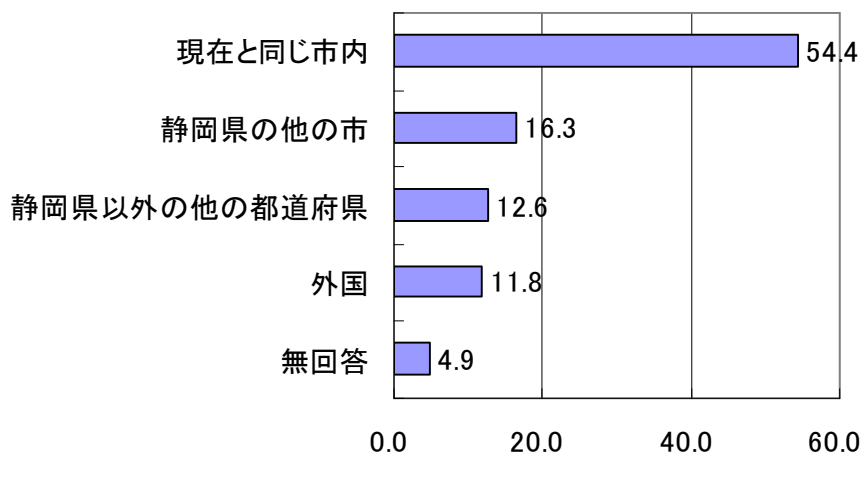
図 現住地への転入時期



現住地への転入時期についてたずねると、2005年から2007年のここ2、3年で現住地に転居してきた者がもっとも多く、4割を超えている。1997年以前から現住地に10年以上居住する者は、全体の1割を占めるにすぎない。日本での滞在年数と比較して、日系ブラジル人の現住地での居住年数が極めて短いことから、地域移動が頻繁に行われている様子をうかがうことができる。

13-2 今の居住地に引っ越す前の居住地は、どこですか

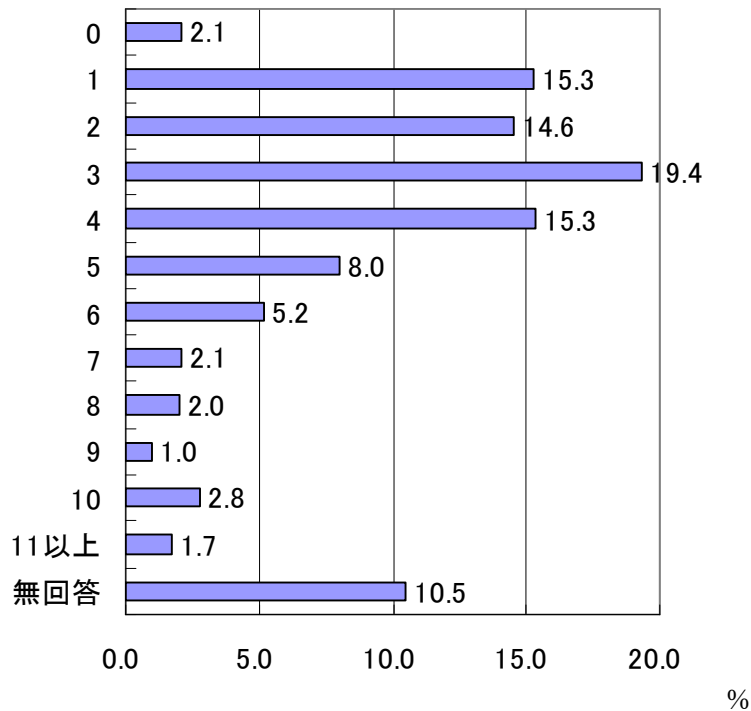
図 転入直前の居住地



以前の居住地についてたずねると、現在と同じ市内という回答が半数をこえ、54%であった。ついで、静岡県内の他の市で16%、県外からの流入者は少なく13%であった。ブラジルをはじめとする外国から直接現在の居住地に流入してきた者は、12%であった。

13-3 現在の居住地への引っ越しを含めて、日本で何回引っ越しましたか

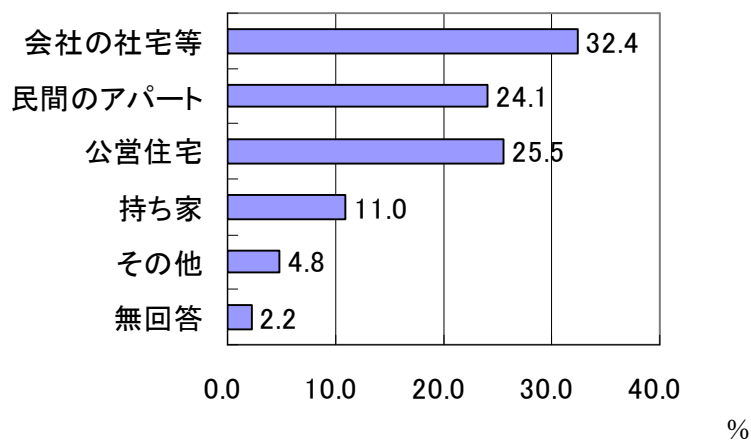
図 日本での転居回数



日本での転居回数については、3回がもっとも多く19%、1回、2回、4回はそれぞれおよそ15%であった。7回以上の転居経験者は、全体の1割近くにのぼっていた。

14 あなたの現在のお住まいについておうかがいします。現在のあなたのお住まいはどれに当てられますか

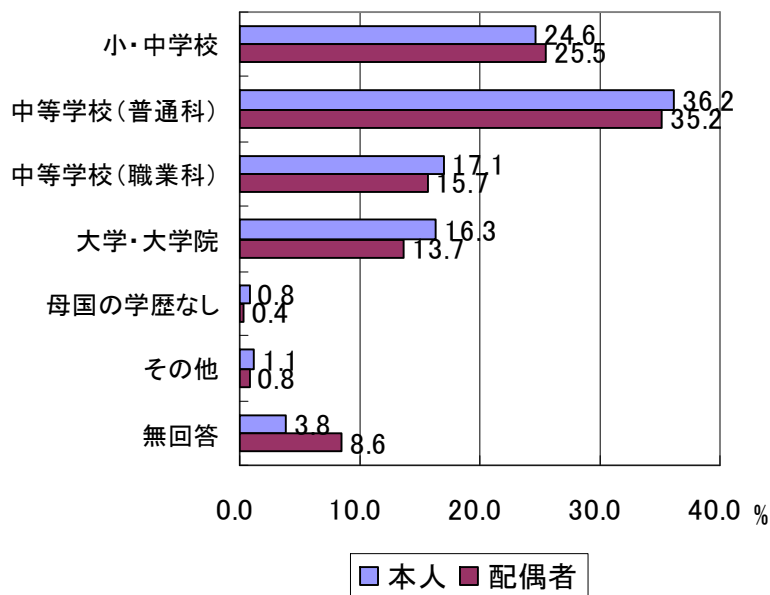
図 住居形態



住居形態についてたずねたところ、会社の社宅等に居住する者がもっとも多く32%であった。ついで公営住宅の26%、自分で契約した民間のアパートの24%であった。住居を所有する層は、1割を超える程度であった。

15 あなたと配偶者のブラジルでの最終学歴を教えてください

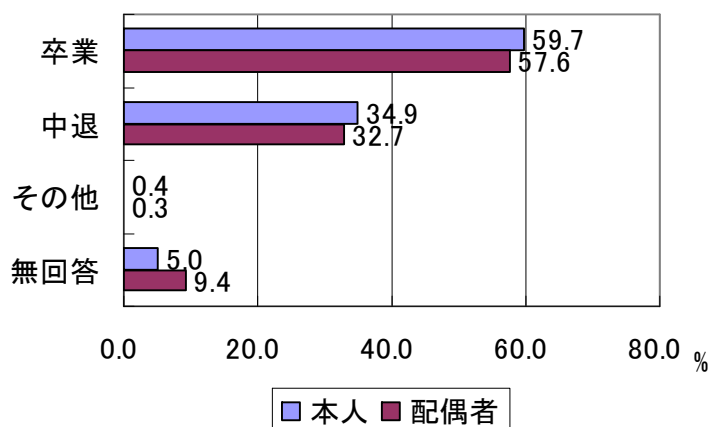
図 本人 (N=1922) と配偶者 (N=1461) のブラジルでの最終学歴



本人と配偶者のブラジルでの最終学歴をたずねると、両者ともほぼ同様の傾向を示した。もっとも多いのは、普通科の中等学校で、本人が36%、配偶者が35%であった。ついで小中学校卒であり、本人が25%、配偶者が26%であった。職業科の中等学校と大学・大学院は、ほぼ同様の数値であり、およそ15%前後であった。

15-1 あなたと配偶者の方の、その学校の卒業の有無についておうかがいします

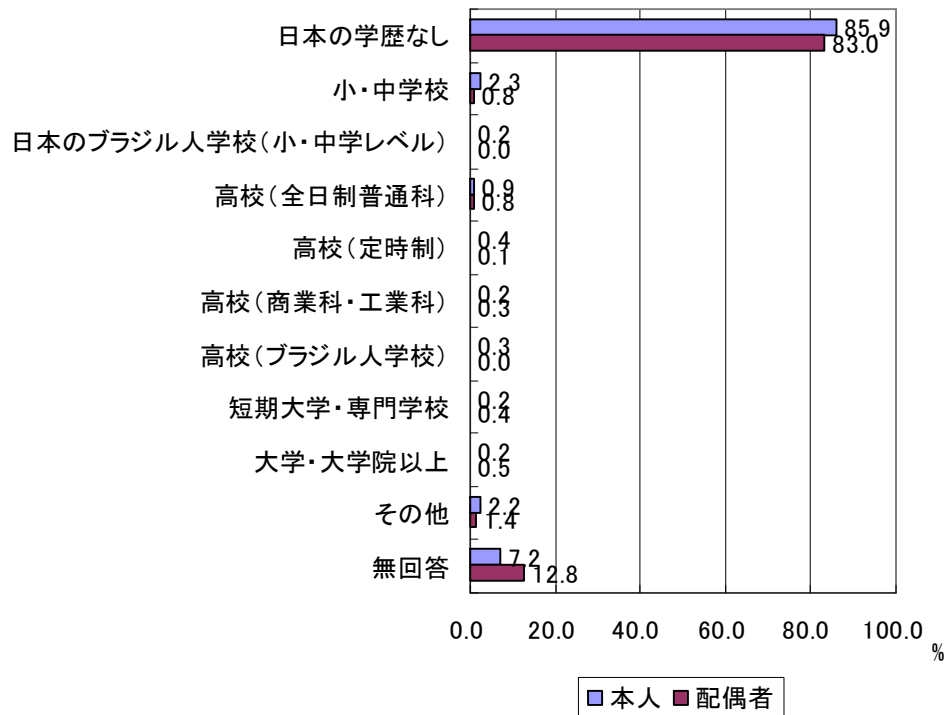
図 本人 (N=1922) と配偶者 (N=1461) のブラジル学歴の卒業の有無



ブラジル学歴の卒業の有無についてたずねると、卒業という回答が本人、配偶者ともに多く、6割近くに達している。中退は、本人35%、配偶者33%であった。

16 あなたと配偶者の方の日本での最終学歴を教えてください

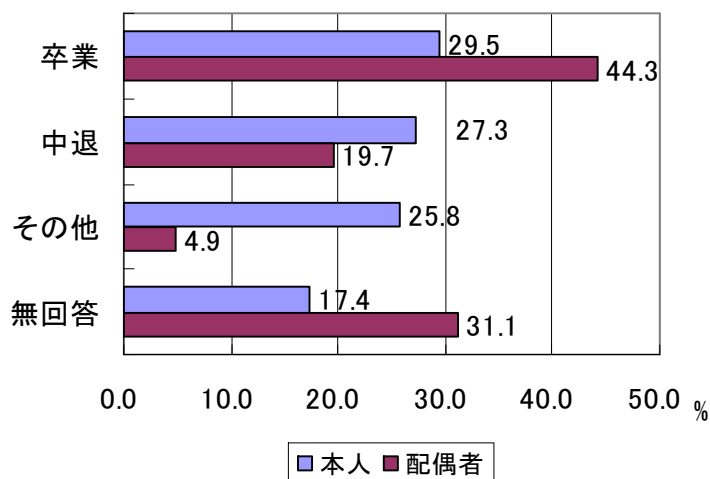
図 本人 (N=1922) と配偶者 (N=1461) の日本での最終学歴



本人と配偶者の日本での最終学歴をたずねた。学歴なしが本人、配偶者ともに8割を越えもつとも多かった。具体的に学歴があると回答する者のうち、小中学校がもっとも多く本人では2.3%、配偶者では0.8%であった。成人を対象に行う調査では、日本で学歴を獲得したブラジル人はきわめて少数派であることがわかる。

16-1 あなたと配偶者の方の、日本での学校の卒業の有無についておうかがいします。

図 本人 (N=132) と配偶者 (N=61) の日本学歴の卒業の有無



日本での学校の卒業の有無では、本人は卒業、中退、その他がほぼ同様の値を示しており、いずれも3割弱となっている。配偶者では卒業が4割を超え、中退は2割程度である。

【②就労】

従業上の地位では、本人・配偶者ともにおよそ6割が派遣・請負などの間接雇用に従事している。無職者を対象に、その理由をたずねると、6割程度の回答者が、家事・育児などを理由に無職状態となっていた。他の理由としては、以前よりもいい仕事を探すため、という自己都合によるもの、病気やケガといった健康上の理由に起因するもの、解雇を理由とするものなどが、一定数見られた。勤め先の事業所の業種については、輸送機器の製造業がもっとも多く、その他や電子機器の製造業が多くみられた。職種では、ブルーカラー労働に従事する者が全体の4分の3を占める。

週当たり労働時間では、40時間程度の回答がもっとも多いが、50時間から60時間労働するという回答も顕著に多かった。1週間の労働日数は、5日が6割近くに達するが、6日という回答も回答者の3割に及んでいた。残業時間については0から4時間と比較的短いものももっとも多かった反面、1週間で20時間を越える者も全体のおよそ1割を占めた。現在の職場での勤続期間は、もっとも多いのが11か月未満で、全体の4分の1を占めるものの、勤続年数が長い者も、一定数いることがわかった。勤務の時間帯では、昼の勤務のみが回答者の6割をこえる反面、昼と夜の勤務の交代制や夜勤のみという回答も、それぞれ2割、1割ほどみられた。

現在の職場への就業経路では、日本にいるブラジル人の友人・知人や、家族・親戚といった人間関係を活用して就業していることがうかがえた。他方で、来日時の最初の仕事については、ブラジルの民間職業斡旋機関の紹介によるものという回答がもっとも多かった。労働条件の提示方法では、口頭で伝達と雇用契約書の作成がそれぞれ4割ずつみられた。労働条件提示の際の使用言語は、ポルトガル語やポルトガル語と日本語の併用が非常に多い反面、日本語だけという回答も全体の4分の1程度みられた。

派遣・請負労働に従事する回答者に限定して、現在の会社での研修・教育訓練の受講時期とその有無をたずねると、受講経験なしがもっとも多く、全体の3分の2近くに達した。受講経験者についてその内容を質問すると、社内のOJTがもっとも多かった。

本人の1か月あたりの収入は、20万円台前半がもっとも多く16%、ついで20万円台後半が15%、17から20万円が14%みられた。世帯年収は、300万円前後がもっとも多かった。

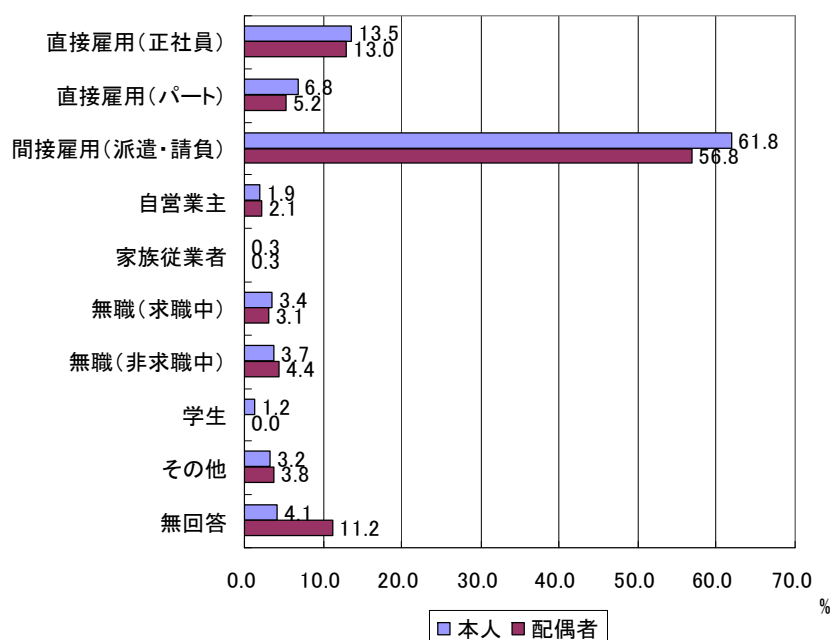
来日時の初職についてたずねたところ、従業上の地位は、派遣・請負などの間接雇用がもっとも多く、7割を超えた。業種では、現職と同様、輸送機器の製造業で働く者がもっとも多かった。職種では、8割程度がブルーカラー労働に従事していた。

来日前の母国での主な仕事についても、同様に質問した。従業上の地位では、正社員がもっとも多く3割を越え、家族従業も含めると回答者の4分の1が自営業に従事していた、母国の労働市場での経験がないまま来日する者も多く、学生が14%、無職が7%であった。職種は、販売がもっとも多く全体のおよそ4分の1、事務が2割弱であった。日本での職種と比較すると、日本で生活するブラジル人は、日本における職業の均質性とは対照的に、出身国ではさまざまな異なる職業に従事していたことがわかる。従業先の規模では、2から9人という非常に零細な事業所で働く者がもっとも多く、3割を占めた。300人以上の規模の大きな事業所で働く者は、16%とそれほど多くなかった。

A. 現在の仕事について

17 あなたと配偶者の方の現在のお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか

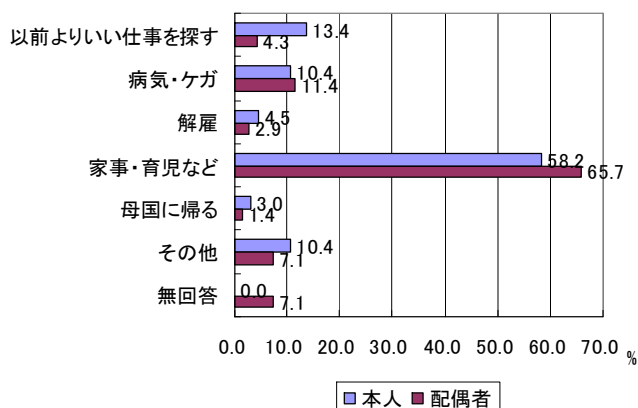
図 本人 (N=1922) と配偶者 (N=1461) の従業上の地位



本人と配偶者の従業上の地位をたずねると、本人・配偶者ともにおよそ6割が派遣・請負などの間接雇用に従事していると回答する。ついで正社員は、本人・配偶者ともに13%であった。直接雇用でもパート・アルバイトとして就業する者は、およそ5から7%であった。自営業主については少なくともおよそ2%である。無職者について求職中か非求職中かを区分すると、両者ともおむね3から4%であった。

17-1 仕事をされていないのは、どうしてですか

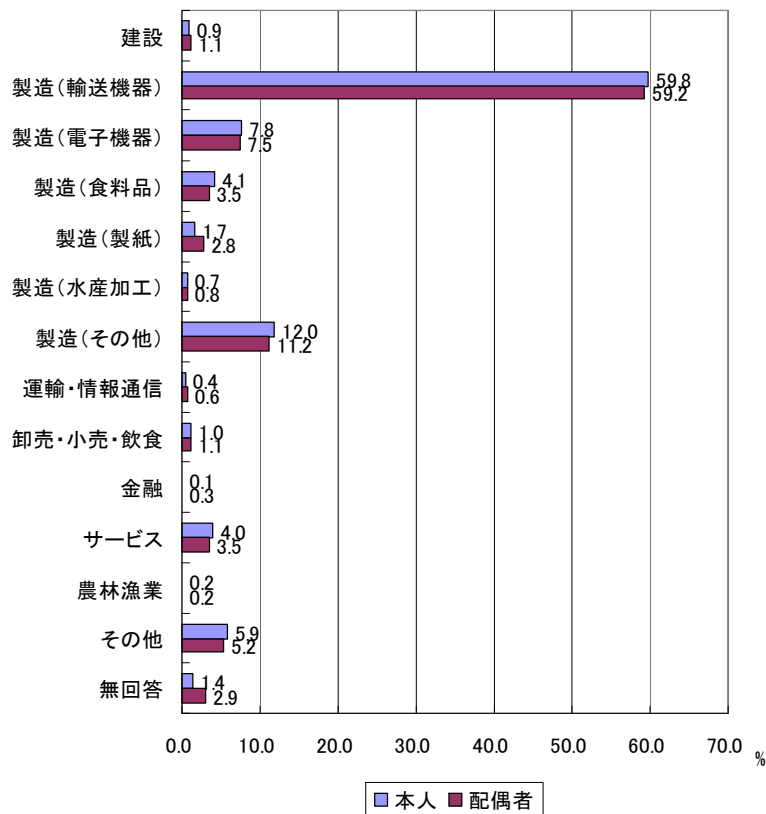
図 本人 (N=67) と配偶者 (N=70) の無職理由



本人と配偶者の無職理由についてたずねたところ、6割程度の回答者が、本人・配偶者にかかわらず、家事・育児などを理由に無職状態となっていた。他の理由としては、以前よりいい仕事を探すため、という自己都合によるものが本人では13%、配偶者では4%、病気やケガといった健康上の理由に起因するものが、10から11%、解雇を理由とするものは、3から5%であった。

18 あなたと配偶者の方はどのような分類の仕事をしていますか

図 本人 (N=1620) と配偶者 (N=1163) の仕事の業種



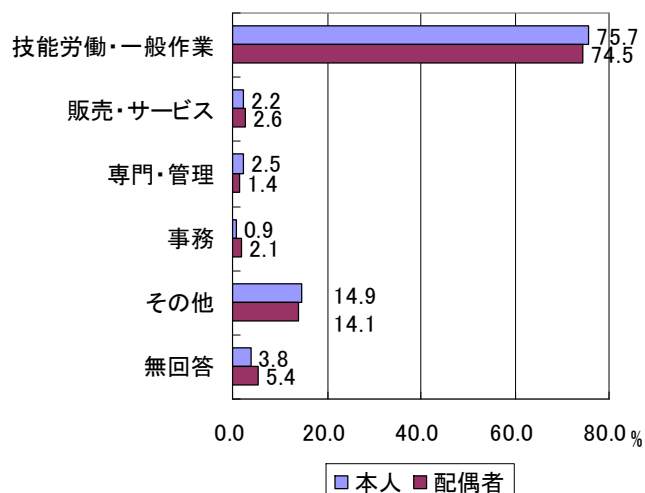
本人と配偶者が従事する仕事の産業についてたずねた。輸送機器の製造業で働く者がもっとも多く、本人、配偶者ともに6割近くを占めている。

それ以外では、その他や電子機器の製造業が多く見られた。

製造業以外では、サービス業に従事するものが一定数おり、3から4%であった。

19 あなたと配偶者の方の具体的なお仕事の内容を教えてください

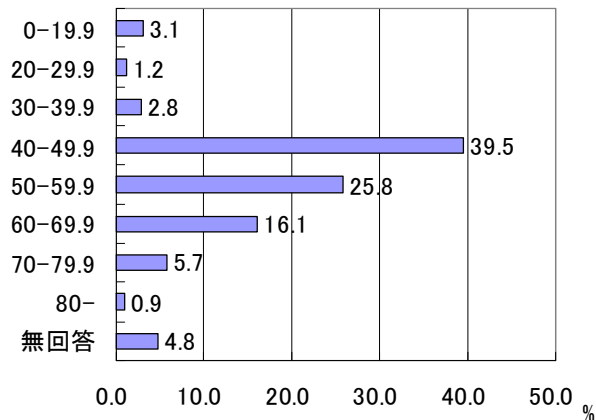
図 本人 (N=1620) と配偶者 (N=1163) の職種



本人と配偶者の職種をたずねると、技能労働・一般作業というブルーカラー労働に従事する者が非常に多く、対象者の4分の3を占める。他方で、ホワイトカラー労働に従事している者は非常に少ない。販売・サービスが2%台、専門・管理や事務では1から2%台にとどまっている。

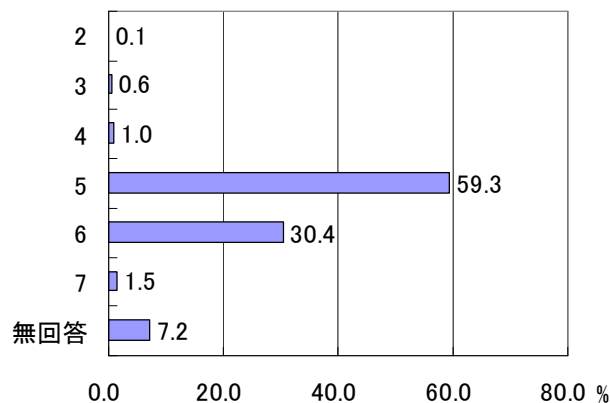
20 あなたはこのお仕事を1週間でおよそ何時間、週に何日していますか

図 週あたり労働時間 (N=1620)



週あたり労働時間についてたずねたところ、40時間程度の回答がもっとも多く40%、ついで50時間程度が26%、60時間程度が16%となった。1週間に70時間以上働く回答者も7%近く見られた。

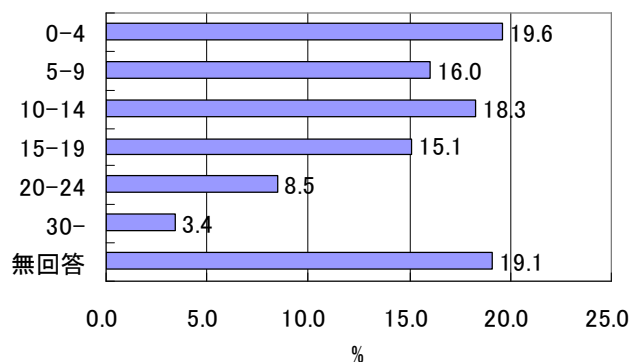
図 週あたり労働日数 (N=1620)



1週間の労働日数については、5日が6割近くに達しているが、6日という回答も回答者の3割に及んでいる。

21 あなたはこのお仕事で、1週間で平均して何時間残業をしていますか

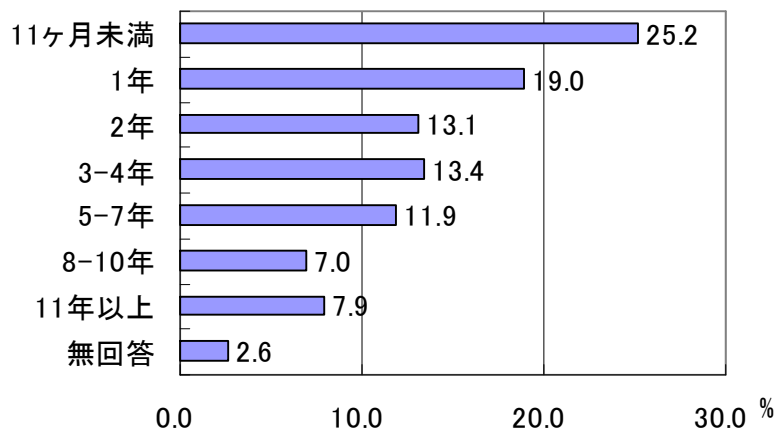
図 週あたり残業時間 (N=800)



残業時間については、0から4時間と比較的短い者がもっとも多く20%、ついで10から14時間が18%である。残業時間が1週間で20時間を越える者が全体のおよそ1割を占めている。

22 あなたは、現在の職場（請負・派遣の方は、現在の派遣先や働いている工場など）での勤続期間はどのくらいですか。

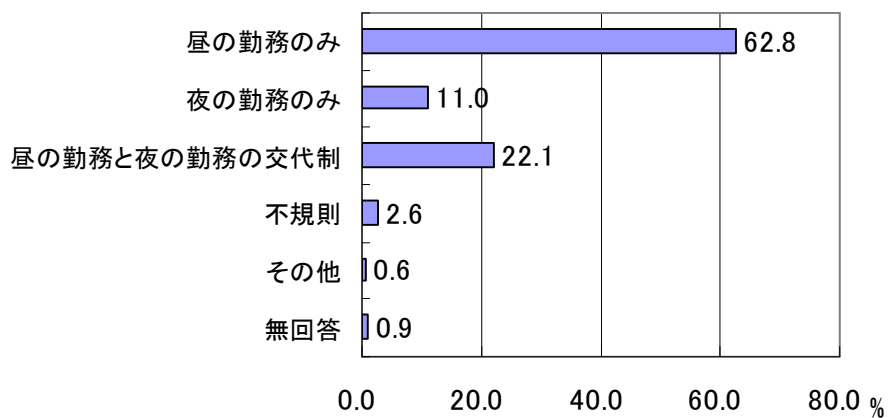
図 現在の職場での勤続期間（N=1620）



現在の職場での勤続期間は、もっとも多いのが11か月未満で、全体の4分の1を占める。勤続年数が長くなるにつれて少しずつ比率が低下傾向にある。とはいえ、勤続年数が8から10年や11年以上という者も一定数おり、それぞれ7%、8%であった。

23 あなたの勤務形態は、以下のどれにあたりますか。

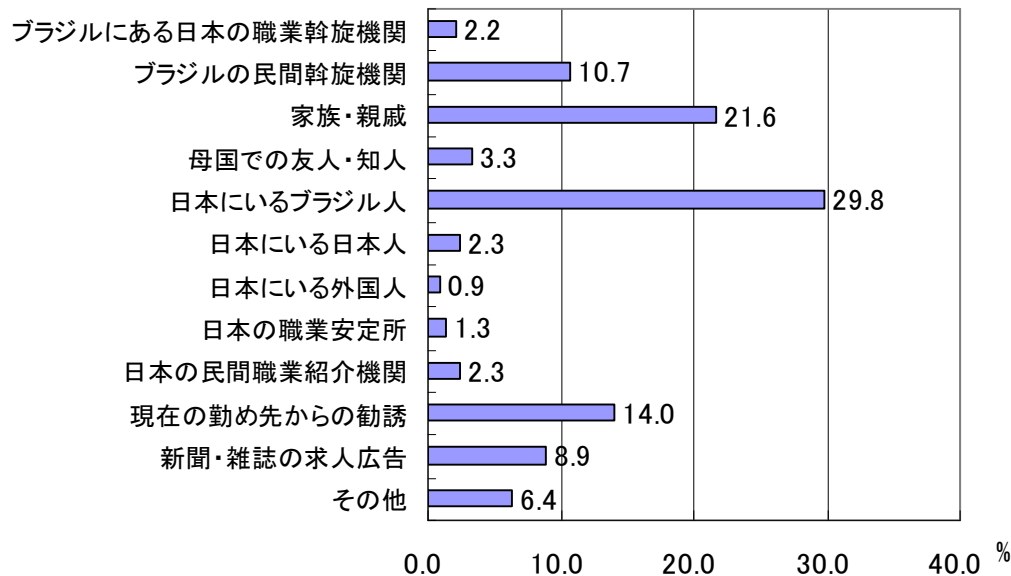
図 勤務形態（N=800）



勤務の時間帯についてたずねると、昼の勤務のみがもっとも多く、63%であった。ついで、昼と夜の勤務の交代制であり、22%であった。夜の勤務のみという者も、11%を占めていた。

24 現在の勤め先（派遣・請負の会社にお勤めの方は、現在所属されている派遣会社）には、どのようにしてつかれましたか。

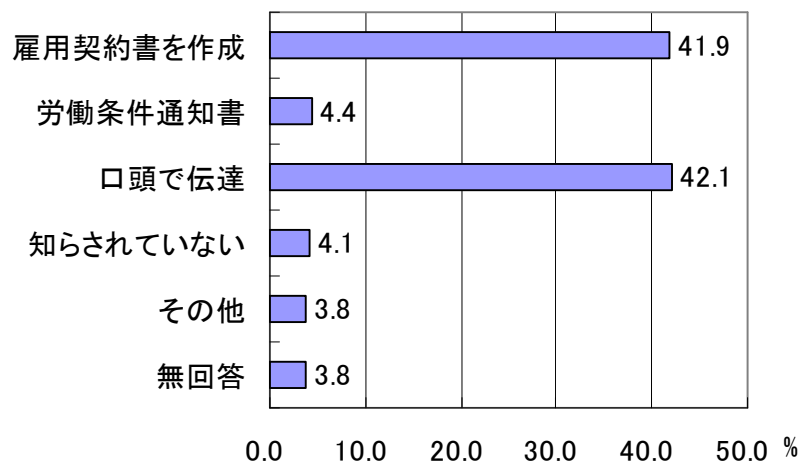
図 現在の職場への就業経路



現在の職場への就業経路についてたずねた。そのなかでも、日本にいるブラジル人という、ブラジル人の友人・知人というネットワークを媒介に、現在の職場に就業しているという回答がもっとも多く30%、ついで家族や親戚のネットワークを活用して就業した者が22%であった。このように、さまざまなネットワークを活用して、ブラジル人は転職をしている状況を見ることが出来る。他方で、現在の勤め先からの勧誘は14%であった。ブラジルでの民間の職業斡旋機関からの紹介は11%であった。

25-1 労働条件はどのような方法で知らされていますか

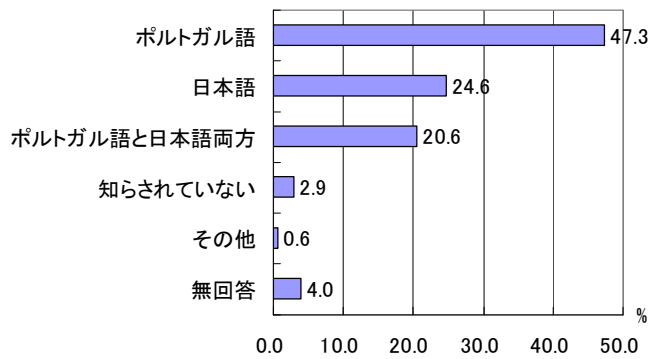
図 労働条件の提示方法



労働条件の提示方法についてたずねると、口頭で伝達と雇用契約書の作成がほぼ同じであり、それぞれ42%であった。なかには、「知らされていない」というケースもあり、4%であった。

25-2 労働条件は何語で知らされましたか

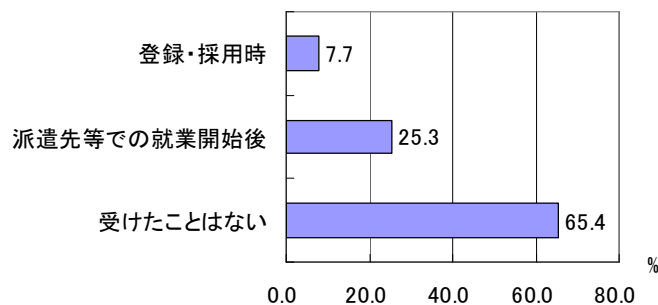
図 労働条件提示の際の使用言語 (N=800)



労働条件を提示する際の使用言語については、ポルトガル語という回答がもっとも多く、5割近くを占めている。ポルトガル語と日本語を併用して用いているケースは21%である。全体の7割近くが労働条件提示の際に、ポルトガル語が用いられている。しかし、日本語だけというケースもかなりの数存在し、全体の4分の1が、日本語だけで労働条件が伝えられている。

26-1 派遣・請負労働に従事する人におうかがいします。あなたは、現在の会社で研修や教育訓練などをいつ受けましたか。

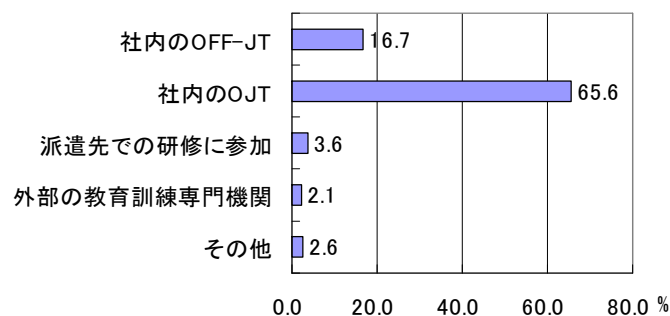
図 派遣・請負の教育訓練の有無 (N=598)



派遣・請負労働に従事する回答者に限定する形で、現在の会社での研修・教育訓練の受講時期とその有無についてたずねた。登録・採用時という回答は8%であり、派遣先等での就業開始後は全体の4分の1であった。受けたことはないという回答がもっとも多く、全体の3分の2近くに達した。

26-2 教育訓練を受けたことがあると回答した方にうかがいます。教育訓練は、どこで実施していましたか

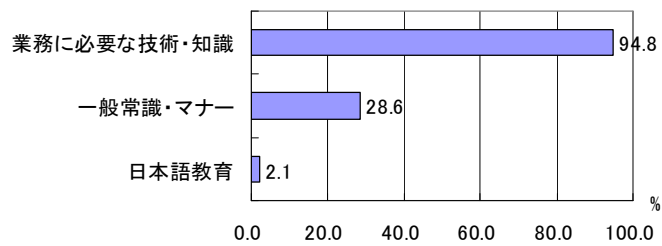
図 教育訓練の実施形態 (N=192)



教育訓練の受講経験者については、さらに教育訓練の実施形態についてたずねた。もっとも多い回答は、社内のOJT (On the Job Training) であり、66%と全体の3分の2近くを占める。ついで、社内のOFF-JT (Off the Job Training) であり、17%であった。派遣先での研修に参加したり、外部の教育訓練専門機関が提供する研修を受講したりする者は、ごく少数にとどまった。

26-3 あなたが受けた教育訓練の内容についてうかがいます

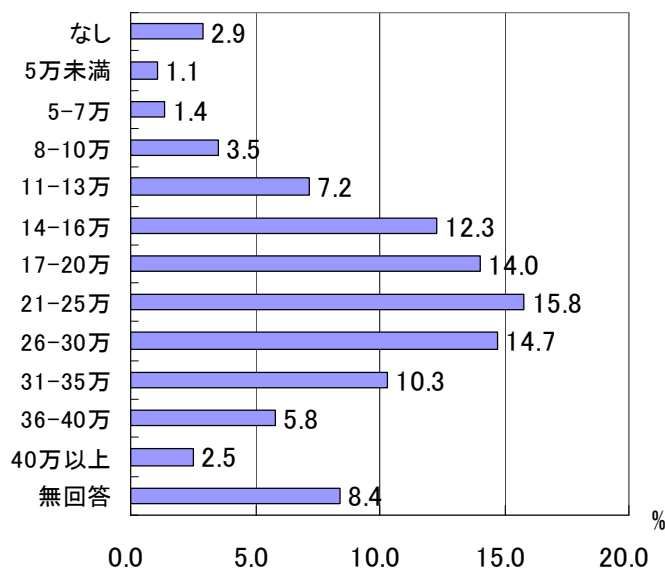
図 教育訓練の内容 (N=192)



教育訓練の内容についてたずねると、業務に必要な技術・知識がもっとも多く、選択率は9割を超えた。一般常識・マナーについても、3割近い回答者が受講経験があった。他方で、日本語教育については、職場で教育訓練は行われておらず、2%にとどまった。

27 あなたの現在の1ヶ月あたりの平均的な収入(税込み)についておうかがいします

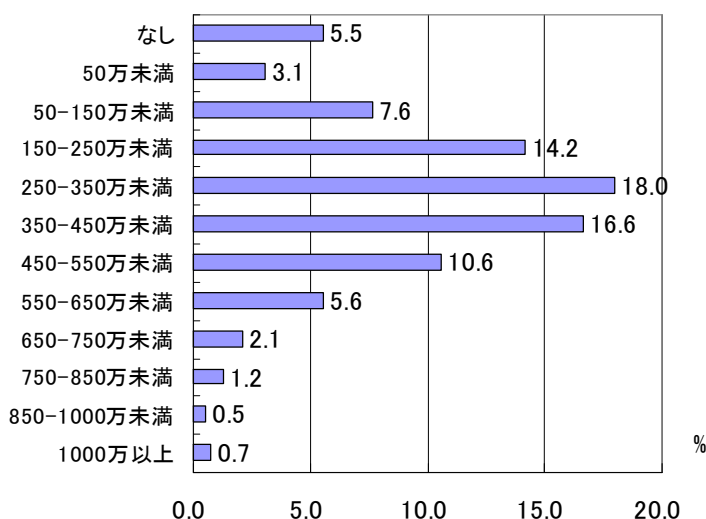
図 本人の月収



本人の1か月あたりの平均的な収入についてたずねたところ、20万円台前半がもっとも多く16%、ついで20万円台後半が15%、17から20万円が14%であった。31万円以上という回答は、全体のおよそ2割弱であった。

28 過去1年間のお宅(生計を共にしている家族)の収入は、合計すると税込みで次のどれに近いですか

図 世帯の年収

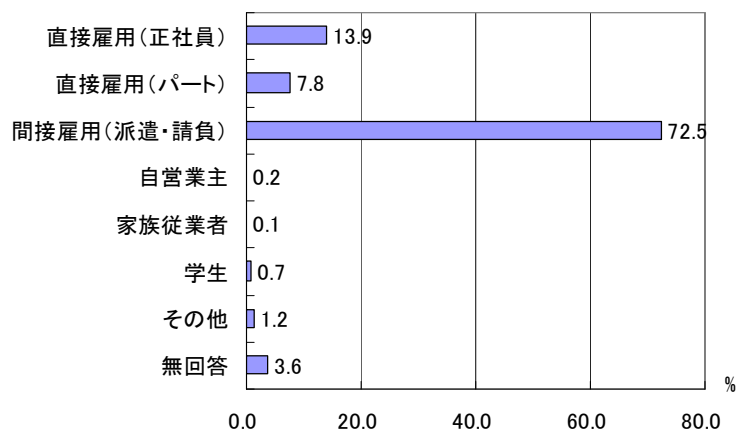


世帯の年収では、300万円前後という回答が18%でもっとも多く、ついで400万円前後が17%、200万円前後が14%であった。世帯の年収が700万円以上は全体で4%程度であった。

B. 日本で初めてついた仕事について

29 あなたが日本で初めてついたお仕事は、次のどれにあてはまりますか

図 来日時初職の従業上の地位

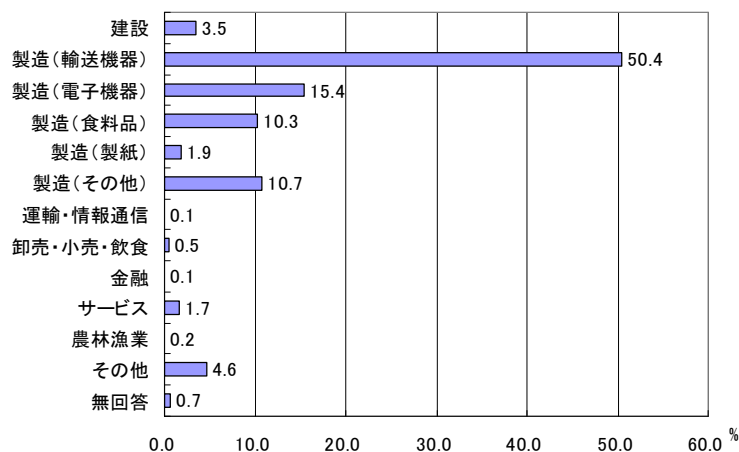


来日時初職の従業上の地位をたずねたところ、派遣・請負などの間接雇用と答える者がもっとも多く、7割を超えている。ついで正社員が14%、パート・アルバイトが8%であった。

自営業という回答は非常に少なく、家族従業を含めても0.3%にとどまった。

30 あなたが初めて日本でついた仕事は、どのような分類の仕事ですか

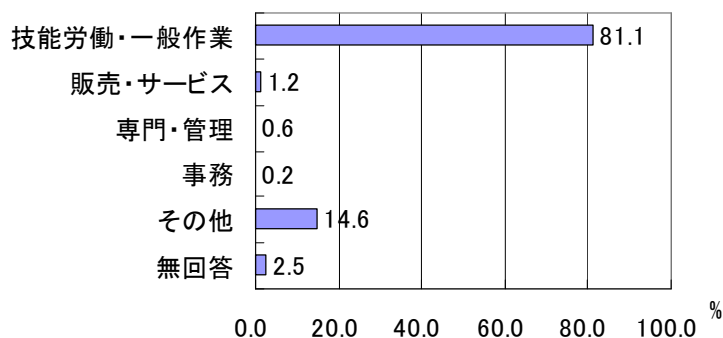
図 来日時初職の業種 (N=1816)



日本での初職の業種についてたずねると、輸送機器の製造業で働く者がもっとも多く、全体のちょうど半数を占めている。ついで、電子機器の製造業が15%、食料品の製造業が10%、その他の製造業が11%と、製造業だけで全体の87%を占めている。

31 あなたが日本ではじめてついた具体的なお仕事の内容について教えてください

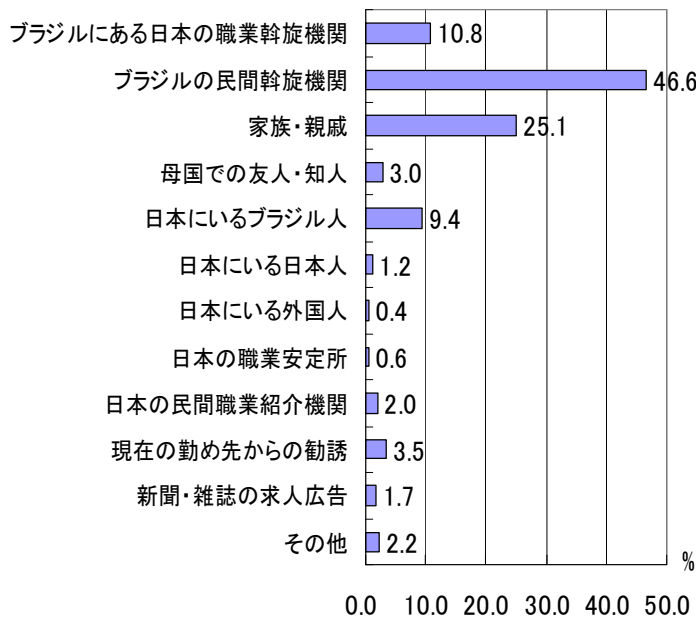
図 来日時初職の職種 (N=1816)



来日時の初職の職種については、81%が技能労働・一般作業といったブルーカラーの労働に従事していると回答する。販売・サービス、専門・管理、事務といった、ホワイトカラー労働に従事する者は非常に少なく、2%にすぎない。

32 日本ではじめてついたお仕事には、どのようにしてつかれましたか

図 来日時初職の就業経路 (N=1816)

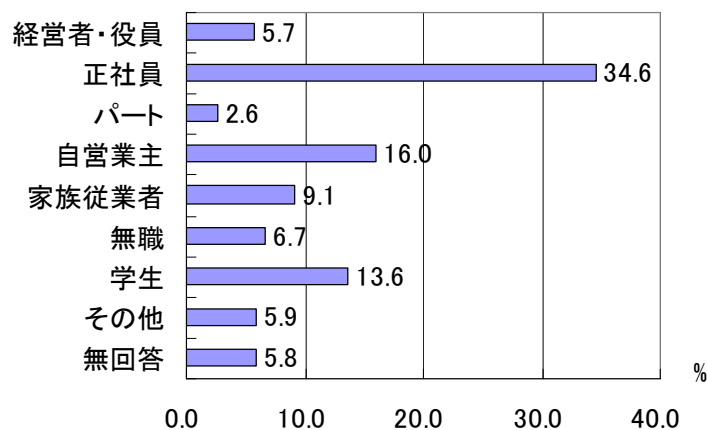


来日時の初職の就業経路についてたずねると、ブラジルの民間職業斡旋機関経由で就業した者は、47%と半数近くを占めている。ついで、家族・親戚を通じてという回答は25%と、全体の4分の1であった。ブラジルにある日本の公的な職業斡旋機関の紹介による者は11%を占めた。現在の職業の場合、日本にいるブラジル人の友人・知人の紹介による者が30%を占め非常に多かったが、来日時の初職については9%にとどまった。

C. 来日前の母国での主な仕事について

33 あなたが日本に初めて来る前に母国でもっとも長く従事していた主なお仕事についておうかがいします。あなたのお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか

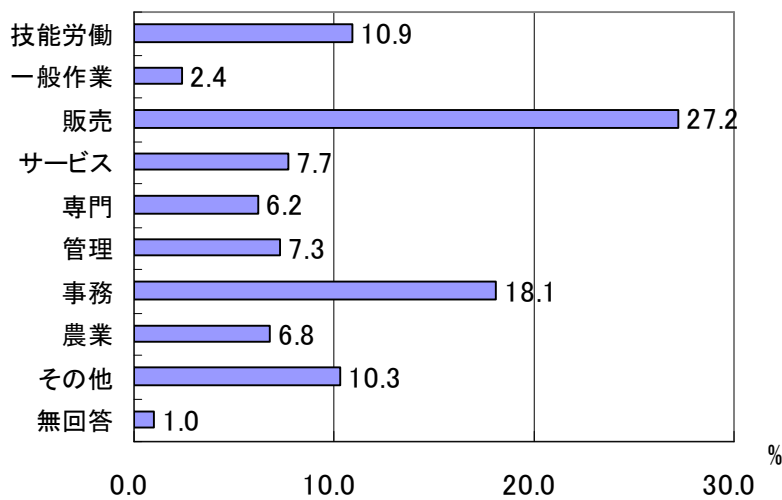
図 来日前の母国での主な仕事の従業上の地位 (N=1922)



来日前の母国での主な仕事についてたずねたところ、正社員という回答がもっとも多く35%であった。ついで、自営業主が16%であり、家族従業者も含めると回答者の4分の1が自営業に従事していることがわかる。母国で労働市場での経験のないまま来日する者も多く、学生が14%、無職が7%であった。

34 あなたは職場でどのような仕事をしていましたか

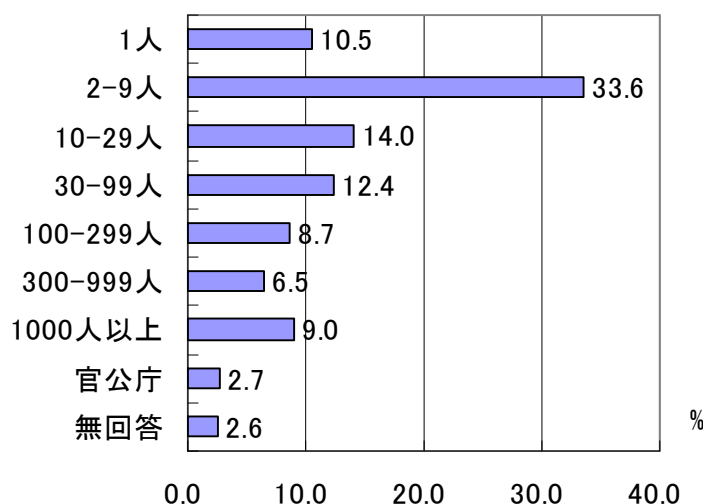
図 来日前の母国での主な仕事の職種 (N=1307)



来日前の母国での主な仕事の職種については、販売がもっとも多く 27%、ついで事務の 18% である。技能労働や一般作業といったブルーカラー労働に従事する者は、合計しても 13% にすぎない。13% が専門・管理の仕事に従事しているが、日本で専門管理に従事する者が少ないことをかんがみると、非常に対照的な結果である。日本で生活するブラジル人は、日本における職業の均質性と比較して、出身国ではさまざまな異なる職業に従事していたことがわかる。

35 従業員（働いている人）は、会社全体で何人くらいでしたか

図 来日前の母国での主な仕事の従業先の規模



母国での主な仕事の従業先の規模についてたずねると、もっとも多いのが 2 から 9 人という非常に零細な事業所で働く者であり、34% を占めた。ついで、10 から 29 人の 14% である。1 人で働くという者も 11% 存在する。300 人以上の規模の大きな事業所で働く者は 16% とそれほど多くない。

【③医療・保険】

日本での健康保険の加入状況については、「会社の健康保険」がもっとも多く、全体の約3割（35%）であった。続いて「国民健康保険」が約4分の1（27%）となっている。一方、健康保険に加入していない者の割合はやはり約4分の1程度（26%）であり、国民健康保険の加入率とほぼ同水準にある。

健康保険に加入していない理由については、「金銭的負担が大きい」（19%）がもっとも多く全体の約5分の1を占めている。それに続いて「市の窓口に行ったが健康保険に加入できなかった」（15%）、「事業所が社会保険に加入させてくれない」（12%）、「日本の保険制度がわからない」（8%）という結果になっている。よく未加入の理由として指摘される年金とのセット加入や、未加入の2年間分の保険料徴収という理由をあげた者は5%と少数である。

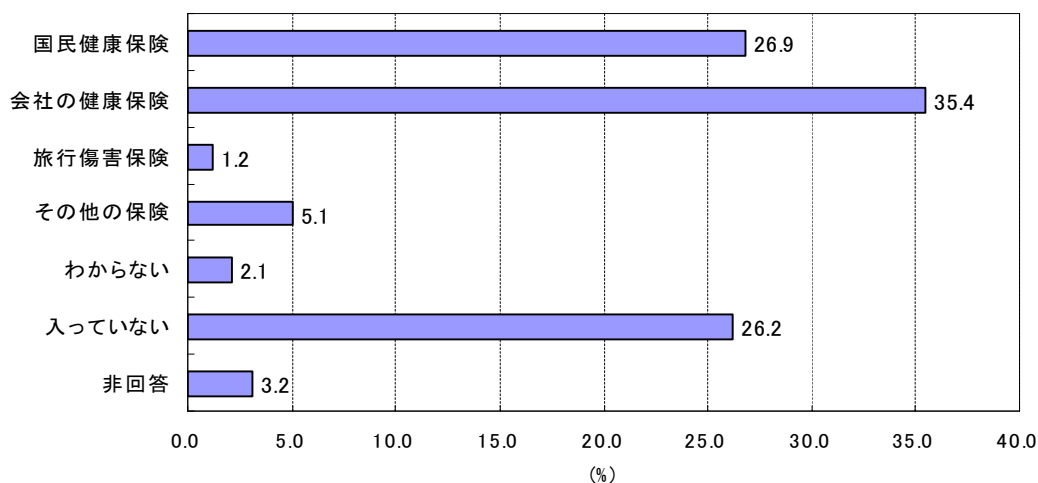
年金は健康保険よりも更に未加入率が高い。「入っていない」との回答が半数近く（49%）にも達している。加入している場合、「厚生年金」がもっとも高く22%、ついで「国民年金」（7%）となっている。「わからない」は6%、ブラジルの何らかの年金保険に加入している者は8%程度である。年金未加入の理由としては、「日本の公的年金制度がわからない」（17%）がもっとも多い。国民健康保険の未加入理由としてもっとも多く挙げられた「金銭的負担が大きい」は、13%であった。ついで、「事業所で加入させてくれない」（10%）、「近日帰国予定」（8%）となっている。「年金をもらえるまでの加入期間が長すぎる」、「途中で脱退した場合の一時金が少なすぎる」という理由を挙げる者は少数であった（それぞれ5%程度）。同じ未加入でも健康保険と国民年金とではその理由に違いが見られる。健康保険では、金銭的負担がもっとも大きな理由となっているのに対し、年金は金銭的負担も大きな理由の一つではあることに間違いはないが、制度に対する知識の不足が未加入の大きな理由となっている。

病気やけがの時の対処方法では、「すぐに医者に行く」が圧倒的に多く、3分の1近く（32%）を占めた。「薬を買って飲む」（7%）、「我慢して様子を見る」（6%）などの処置は、比較的少数派である。病院での言葉の問題は、「医師の日本語が理解できる」と回答した者が約4分の1程度おり、本調査の対象者は比較的日本語には苦労していないようである。言葉に問題がある場合、「日本語のできる家族・友人を連れて行く」（11%）、「通訳のいる病院に行く」（10%）という対応が多い。「通訳を雇って連れて行く」と回答した者も5%いた。

雇用保険の加入状況に関しては、「加入している」（39%）よりも「加入していない」（43%）の割合の方が高い。また、「わからない」（12%）と回答した者も1割程度いることがわかった。

36 日本での健康保険の加入状況を教えてください。

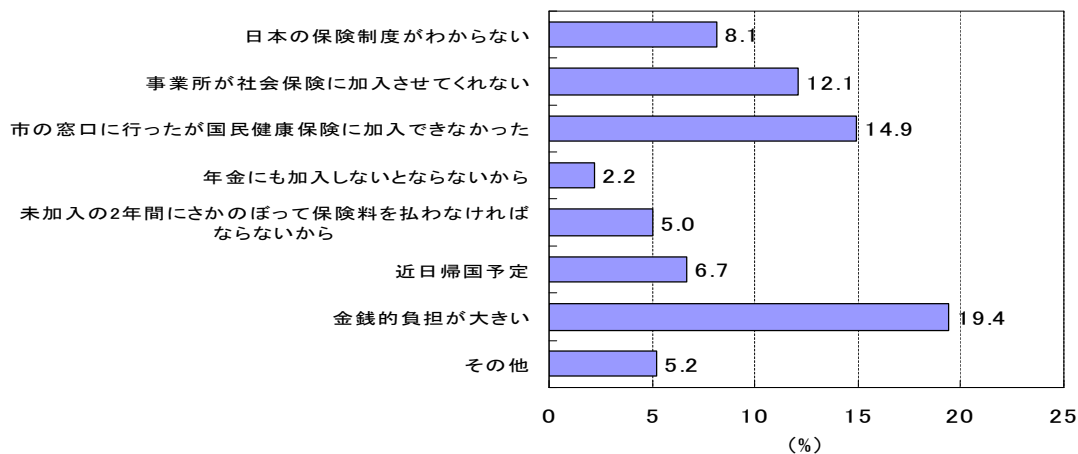
図 健康保険加入状況 (N=1922)



健康保険の加入状況については、「会社の健康保険」が 35%ともっとも多い。続いて「国民健康保険」の 27%となっている。しかし、「健康保険に入っていない」が 26%と国民健康保険への加入率とほぼ同レベルの高さになっている。

37 問 36 で (6) 「入っていない」に○をした方にお聞きします。健康保険に加入していないのはなぜですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

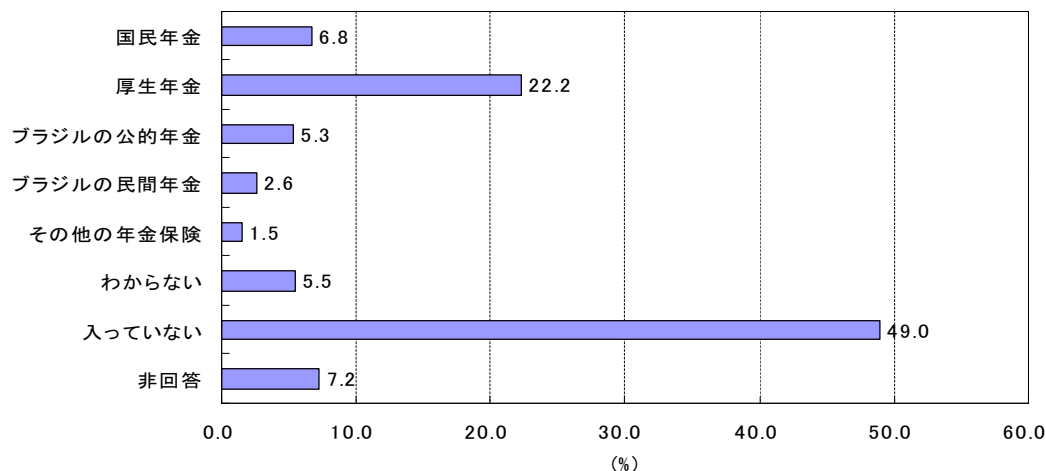
図 健康保険未加入の理由 (N=504)



健康保険に加入していない理由についてたずねたところ、「金銭的負担が大きい」がもっとも多く、19%を占めた。ついで、「市の窓口に行ったが国民健康保険に加入できなかった」(15%)、「事業所が社会保険に加入させてくれない」(12%)、「日本の保険制度がわからない」(12%)という順番になっている。

38 年金への加入状況を教えてください。

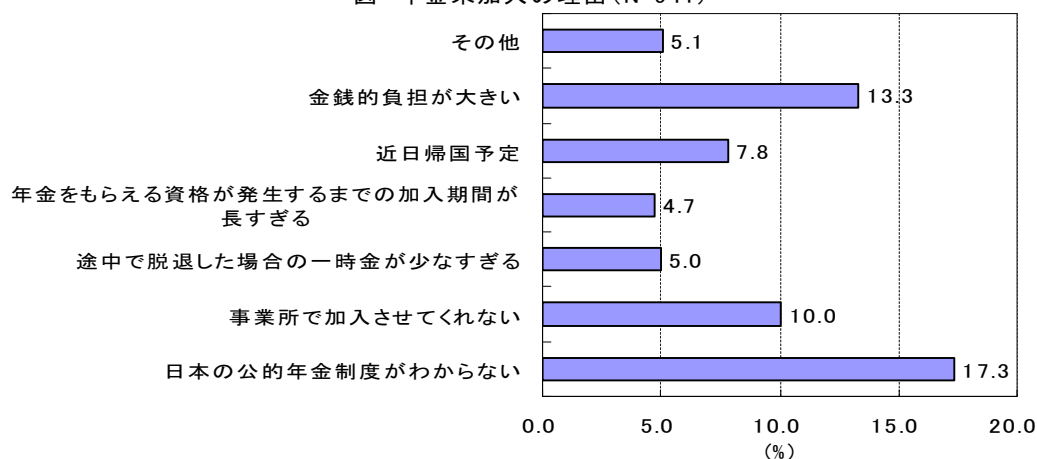
図 年金の加入状況 (N=1922)



年金の加入状況では「入っていない」がもっとも多く、全体の半数近く（49%）を占めた。加入している年金でもっとも多いのは「厚生年金」の22%、「国民年金」の7%であった。ブラジルの年金に加入している者も公的・民間両者合わせて8%程度存在する。

39 問38で(7)「入っていない」に○をした方にお聞きします。年金に加入していないのはなぜですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

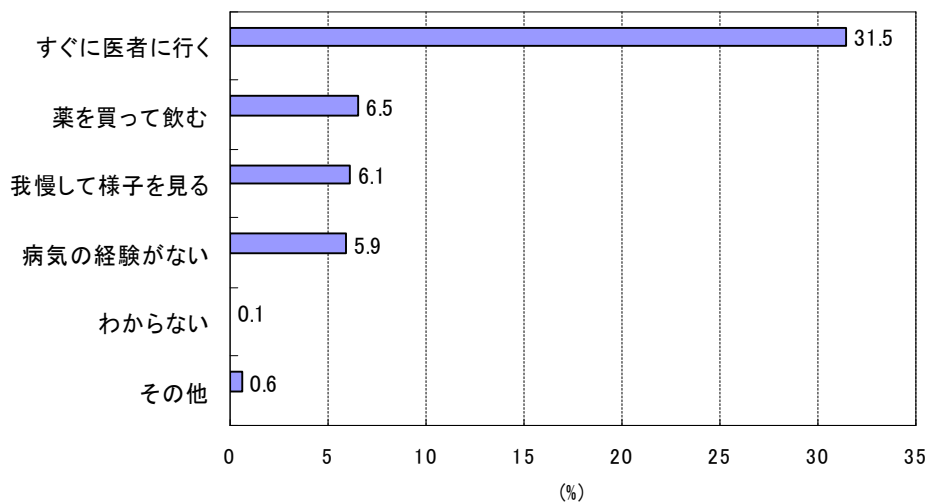
図 年金未加入の理由 (N=941)



年金未加入の理由でもっとも多いのは、「日本の公的年金制度がわからない」の17%であった。ついで、「金銭的負担が大きい」(13%)、「事業所で加入させてくれない」(10%)が続く。「近日帰国予定」の者は8%であった。「年金をもらえる資格が発生するまでの加入期間が長すぎる」、「途中で脱退した場合の一時金が少なすぎる」はそれぞれ5%程度であった。

40 病気やけがをしたとき、どうしますか。

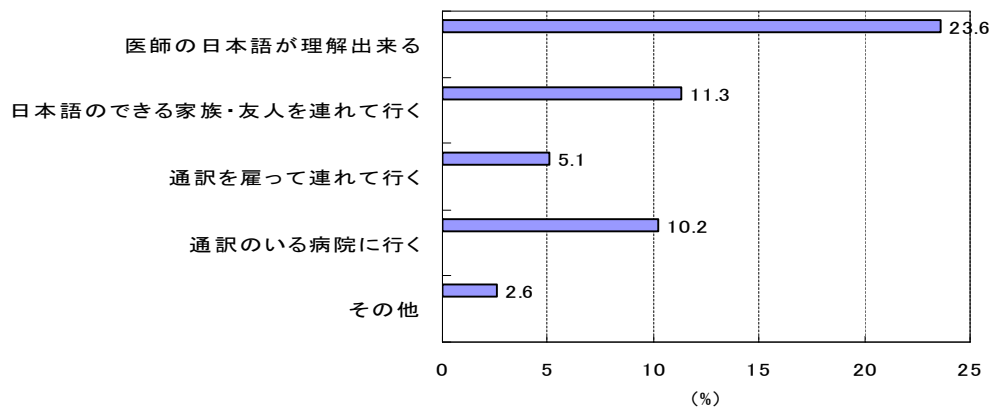
図 病気やけがの時の対処方法 (N=1922)



病気やけがをしたときの対処方法としてもっとも多いのは、「すぐに医者に行く」(32%)であった。続いて、「薬を買って飲む」、「我慢して様子を見る」がそれぞれ6%程度であった。

41 あなたは普段病院に行くとき、病院での言葉の問題についてどのように対応していますか。

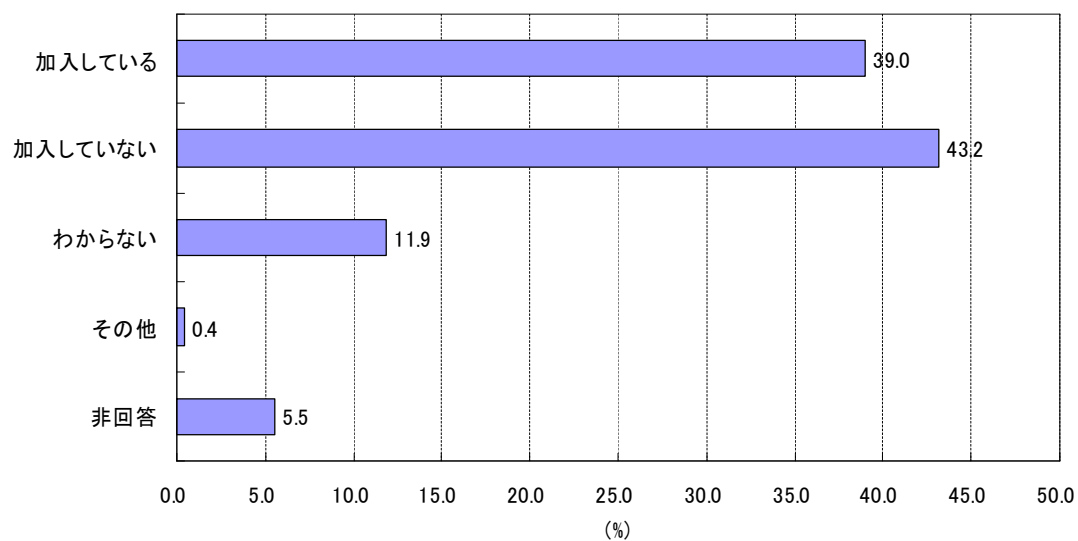
図 病院での言葉の問題への対処方法 (N=1922)



病院での言葉の問題については、「医師の日本語が理解できる」という回答がもっとも多く、24%を占めた。日本語が理解できない場合、「日本語のできる家族・友人を連れて行く」(11%)、「通訳のいる病院に行く」(10%)という対応が多い。「通訳を雇って連れて行く」という回答も5%程度あった。

42 現在、雇用保険（失業保険）に加入していますか（給与明細で雇用保険料控除があれば、加入）。
あてはまるものに○をつけてください。

図 雇用保険の加入状況(N=1922)



雇用保険の加入状況については、「加入していない」（43%）、「加入している」（39%）という状況になっている。一方、「わからない」という回答も12%と少なからず存在する。

【④—1 日常生活】

日常生活における地域との関わりや情報収集方法、ネットワークの形成と並んで、近年外国人ドライバーによる交通事故の多発によって関心が高まっている運転免許や自動車保有状況、そして自動車保険の加入状況について調べた。

地域との関わりについてみると、ブラジル人同士で開催する行事とほぼ同程度で地域の行事に参加している点に注目すべきである。この調査では地域の行事の具体的内容については質問していないが、地区運動会のようなイベントに参加するブラジル人が増加していることを裏付ける。地域社会との接点がある程度形成している層の存在が認められる。一方でブラジル人団体や外国人支援のボランティア団体の会合への参加は極めて低調である。日本人側にはブラジル人団体の形成を希望する声があるが、仮に団体が結成されても意見集約や情報提供の結節点としてうまく機能するかどうかについては判断が難しい。

よく利用するメディア・情報源としては、ポルトガル語メディアが活用されていることがうかがえる。2006（平成 18）年度の浜松市での調査同様、インターネット（PC）の利用がもっとも多い点は近年の特徴となっている。この場合もポルトガル語のサイトから情報を得ている可能性が高い。日本で発行される雑誌・新聞、ラジオ・テレビに大きく依存する一方、ブラジルで発行されるポルトガル語新聞はほとんど利用されていない。日本語メディアとしての新聞の活用は 2 割にとどまるが、日本語によるラジオ・テレビの活用は 5 割を超えている。日本語情報も音声情報であれば、情報源として利用されている点が理解できる。静岡県内の自治体ではポルトガル語版広報の発行が進んでいるが、行政機関のポルトガル語版ホームページの利用が 1 割にとどまるのに対し、ポルトガル語版広報の利用は 5 割近くに達している。紙媒体も頒布方法を工夫すれば、貴重な情報提供手段として機能しうるといえる。

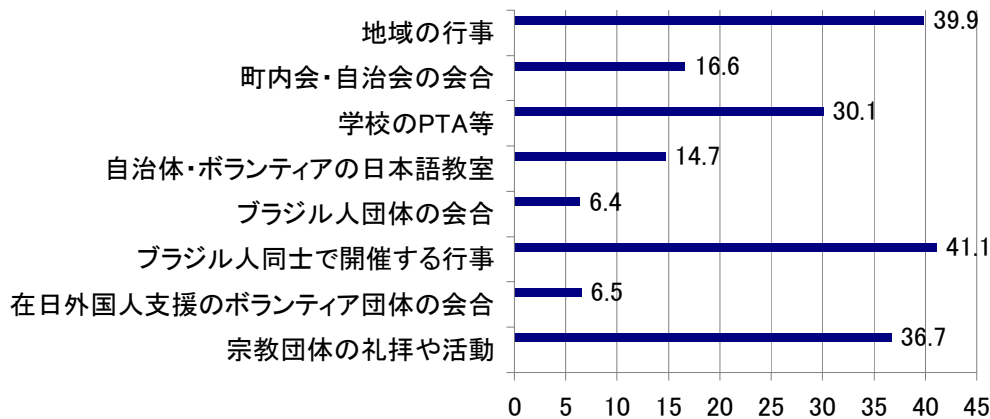
悩みや困ったことの相談については、ブラジル人コミュニティ内部で個人的なネットワークを主に利用して対応している様子がうかがえる。配偶者等を除けば、その他の親族よりブラジル人の友人・知人の方が相談相手となっている比率が高い。他方、日本人の友人・知人に相談する者が 2 割弱いるものの、行政の相談窓口や支援団体等は相談先としてはあまり活用されていない。

日本での自動車運転資格を有する者の多くは、ブラジルの運転免許を切り替えている。日本で運転免許を取得した者は 1 割にも満たない。回答者の 6 割ほどが日本での運転資格を有し、自動車の保有も 5 割を超える。多くは日本人の中古車販売店から購入しているが、新車を購入する層も 1 割強みられる。ブラジル人の中古車販売店の利用者は 15%ほどにとどまっている。

自動車保険については、自動車保有者の 9 割近くが自賠責・任意保険の両方に加入していると回答している。しかし、任意保険未加入者が 1 割弱みられるし、ごくわずかではあるものの自賠責保険にも加入していない者がいる点には注意が必要である。

43 あなたは以下にあげる団体や活動に参加したことがありますか（○はいくつでも）。

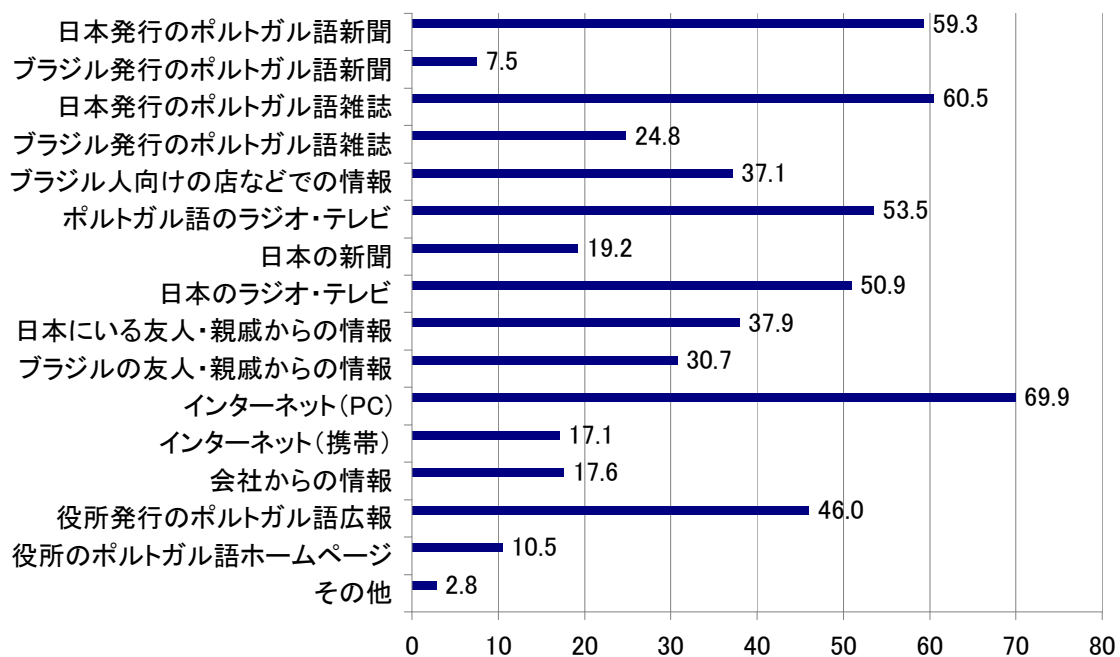
図 地域の団体・活動への参加状況（N=980）



ブラジル人同士で開催する行事がもっとも多かったが（41%）、地域の行事への参加もほぼ同程度で認められる（40%）。ついで宗教団体の礼拝や活動に37%が参加している。学校のPTA等への参加も3割程度（30%）となっている。ブラジル人団体の会合や在日外国人支援のボランティア団体の会合への参加は1割に満たず、町内会・自治会の会合への参加（17%）より少ない。

44 あなたがよく利用するメディアや情報源は何ですか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

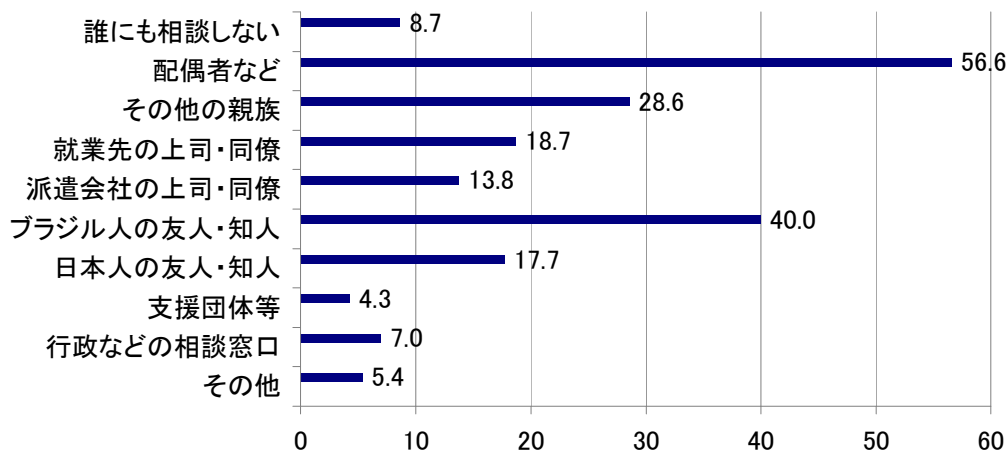
図 よく利用するメディア・情報源（N=974）



インターネット（PC）がメディア・情報源としてもっともよく利用されている（70%）。ついで日本発行のポルトガル語雑誌（61%）、日本発行のポルトガル語新聞（60%）が続く。ラジオ・テレビについては、ポルトガル語放送（54%）と並んで日本語放送（51%）も利用されている。役所発行のポルトガル語広報も46%の者が活用していると回答した。

45 あなたは、悩みや困ったことがあるとき、誰に相談していますか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

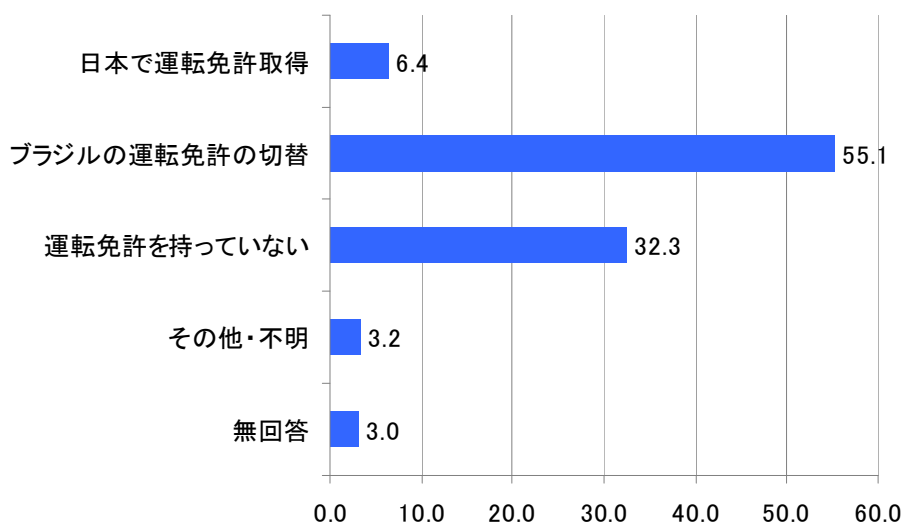
図 悩みや困ったことの相談先 (N=974)



悩みや困ったことを相談する相手としては、配偶者などが57%でもっとも多かった。ついでブラジル人の友人・知人が40%であり、その他の親族(29%)より多かった。一方、日本人の友人・知人に相談するとの回答は18%にとどまっている。行政の相談窓口は7%、支援団体等も4%であり、ブラジル人コミュニティ内の個人的ネットワークを使って悩みごとの解決を図る傾向が認められる。

46 あなたは日本で自動車を運転する資格を持っていますか (○は1つだけ)。

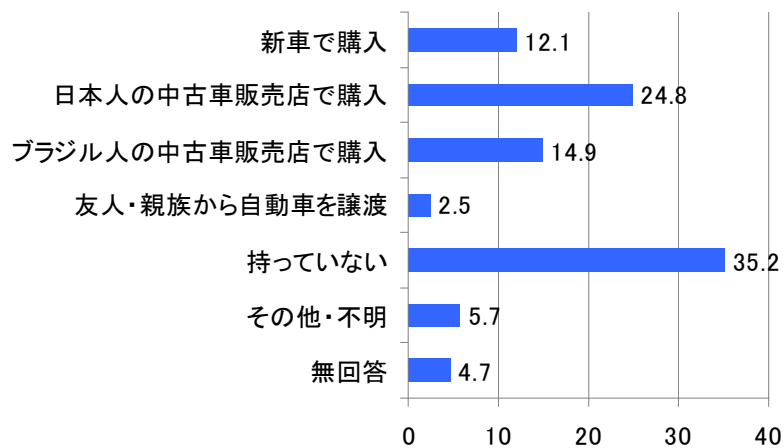
図 日本での運転資格の有無 (N=974)



日本で自動車を運転する資格の有無をたずねたところ、55%がブラジルの運転免許を切り替えたと回答している。日本で免許を取得した者はわずか6%しかいない。しかし、両者を合計すると、6割を超える者が日本で自動車を運転する資格を有していることになる。

47 あなたは日本で自動車を保有していますか（○は1つだけ）。

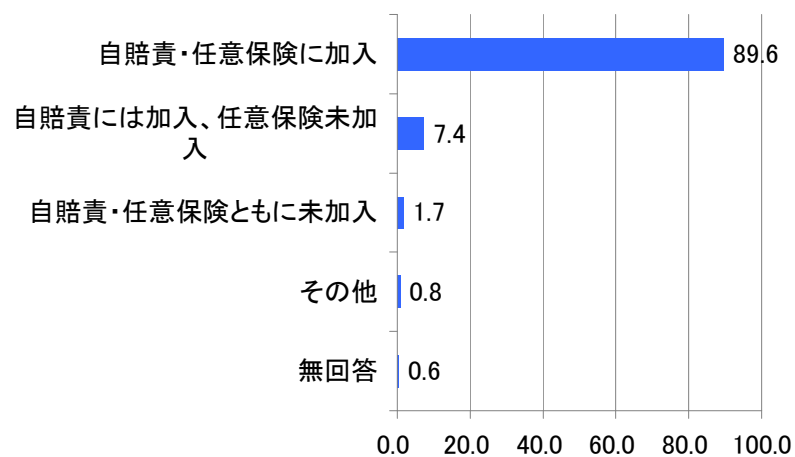
図 自動車保有状況（N=974）



自動車保有についてたずねたところ、日本の中古車販売店で購入した者が 25%でもっとも多かった。ついでブラジル人の中古車販売店で購入した者が 15%いた。新車での購入は 12%となっている。友人・親族からの譲渡で自動車を保有する者は 3%でごく少ない。これらを合計すると、54%が自動車を保有していることになる。

48 問 47 で、1~4 の回答をした方にうかがいます。自動車の保険には加入していますか。

図 自動車保険加入状況（N=530）



自動車保有者に自動車保険の加入状況をたずねたところ、9割が自賠償・任意保険の両方に加入していると回答した。しかし、任意保険未加入者は 7%いるし、自賠償にも任意保険にも加入していない者も 2%存在する。

【④—2 アイデンティティ】

1990年以來、日本で暮らすブラジル人は増加を続け、2006年12月末現在、30万人を超えるブラジル人が日本で生活している。そのほとんどが零細企業で仕事をしながら日本各地で地域住民として生活している。ここでは、本人たちが日本で生活する中で、日常的に満足していること、悩みや不安に感じていること、そして日本で感じる差別について調べた。

職場以外の場における日本人または同国人との関わりの度合いにより、日本での生活パターンに違いが見られると言える。在日ブラジル人と日本人との結婚はまだ極めて少ないが、本調査でも日本人の配偶者を有するブラジル人は4%であり、ブラジル人同士の結婚が圧倒的に多かった。したがって職場以外でもブラジル人コミュニティ内で日常生活を送っている者が多く、日本で長期間生活していても、ブラジル人コミュニティの凝集性が高いためにブラジル人としてのアイデンティティが強化されると考えられる。

ただ、その一方で、どの程度日本の地域社会に対して愛着を持っているのかについて調べたところ、全体の70%程度が静岡県および居住する地域（市町村）に対して愛着を持っていることがわかった。また、かれらの生活基盤が日本に移る傾向があり、ブラジルにいる家族との経済的なつながりが徐々に弱くなっていることが考えられるが、ブラジルに対する愛着も強くあり、日本で生活していてもブラジル人としてのアイデンティティは維持されていると言える。

49 あなたの日本での日常生活の中で、どの程度満足していますか

表 生活の満足度

	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	非常に不満	不明	無回答
所得・収入	3.3	36.6	15.7	30.7	6.6	2.2	5.0
資産・貯蓄	2.5	22.3	18.2	31.7	13.3	3.0	9.0
耐久消費財	7.1	45.8	25.9	8.8	3.2	2.7	6.6
住生活	10.9	45.5	14.7	15.1	5.8	3.3	4.7
余暇生活	5.3	40.9	20.5	19.0	5.7	2.3	6.2
仕事の状況	4.3	41.8	21.3	19.1	5.3	2.3	5.8
日本での生活全般	10.0	56.1	17.9	9.2	2.0	1.3	3.5

日本での生活全般に関する満足度は高く、「非常に満足」と「どちらか満足」を合わせると、66%を超える。その中で、資産・貯蓄を除けば、全体的に40%以上が日本での生活に満足していると答えている。一方、「所得・収入」と「資産・貯蓄」に関しては、40%前後が不満であると答えている。

経済面では不満を持ち、日本での不安定な契約のもとで就労している人が多いにもかかわらず、その他の局面や生活全般においてはある意味で「安定」しているという主観的認識が多数派となっている。つまり、日本では1980年代後半から単純労働における人手不足の状況が変わらず、ブラジル人たちの就労先は継続的に提供されているため、「安定」した生活ができていると考える人が多いと推測できる。

50 あなたの日本での日常生活の中で、不安に感じていることについてうかがいます

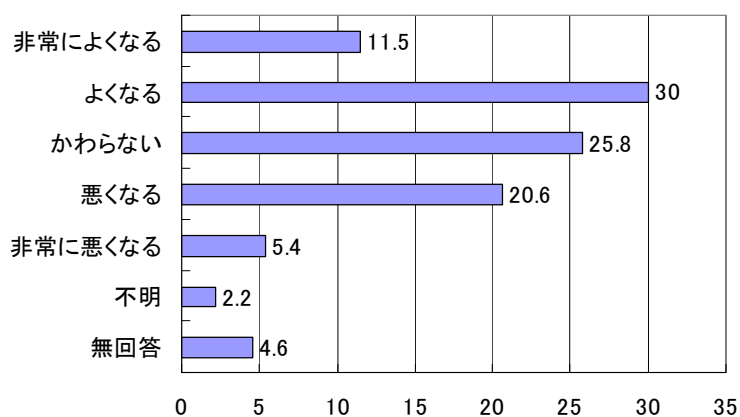
表 日常生活の不安

	とても安心	少し安心	不安	とても不安	不明	無回答
仕事の状況	5.7	59.0	23.1	3.1	2.4	6.1
残業の減少	3.7	29.0	41.2	13.1	3.3	9.7
失業	4.3	31.9	37.3	13.9	3.3	9.3
子どもの教育	13.0	43.8	18.5	3.9	4.8	16.1
親子関係	21.6	44.6	12.9	2.8	4.1	14.0
夫婦の仲	24.6	42.1	9.4	3.8	5.1	15.0
住居の確保	11.8	54.3	21.6	4.8	2.3	5.2
病気	6.5	40.7	33.7	9.7	2.2	7.2
健康保険	8.1	45.2	23.7	12.2	3.1	7.7
年金	3.1	18.8	36.6	28.4	2.9	10.2
老後の生活	2.1	13.0	38.0	34.1	2.7	10.1

日常生活の中では、年金と老後について「不安」、「とても不安」と答えている者が多く、全体の60%程度を占める。また、仕事の状況には安心してしていると答えても、「残業の減少」と「失業」に関しては不安を感じていることがわかる。家族関係に関しては、全体的に半分程度が安心してしていると答えている。

51 今後ブラジルへ帰国した場合、日本の生活と比較して、どう変わるとお考えですか

図 帰国後の展望

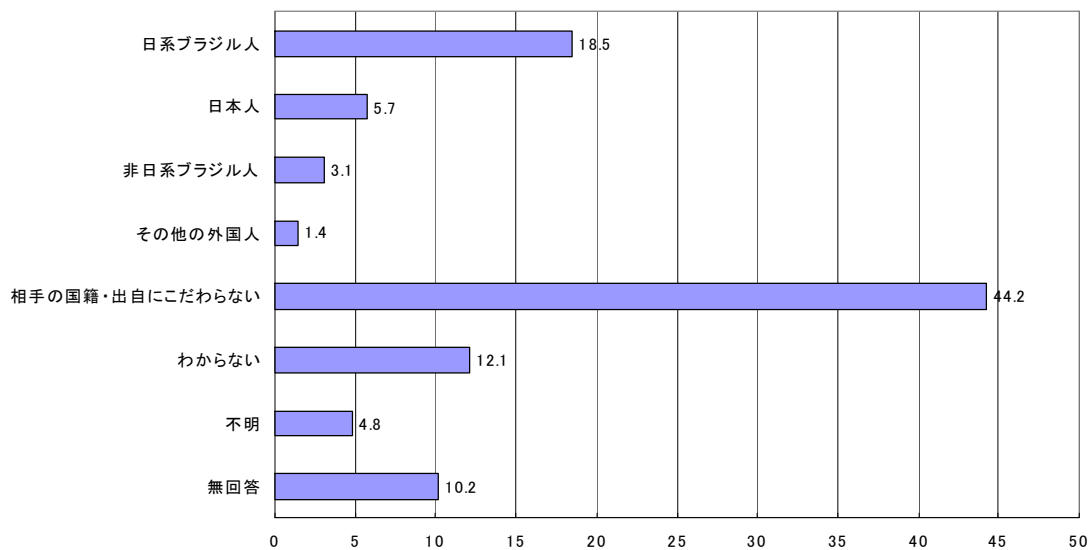


ブラジルへ帰国した場合の生活状況についてたずねたところ、40%程度の回答者が、帰国後は日本での生活より「非常によくなる」、「よくなる」と答えている。逆に、「悪くなる」、「非常に悪くなる」との回答は合計で25%程度である。

問49でたずねた日本での生活に対する満足度と、問51でたずねたブラジル帰国後の期待との関係を検討してみると、在日ブラジル人は日本人の生活状況と比較した上で「日本での生活」について評価しているのではなく、「日本での生活」は今後ブラジルにおいて来日前より良い生活を送るための通過点であると認識している結果、大きな不満を抱かないのだと推測できる。

52 独身の方に限定してうかがいます。あなたにとって、どのような人が結婚相手として望ましいと思いますか

図 望ましい結婚相手 (N=421)



自分の結婚相手として望ましい人については、「相手の国籍・出自にこだわらない」と答えた者が 44%でもっとも多かった。「日系ブラジル人」が望ましいとの回答は 19%、「日本人」と答えたのは 6%であった。

日本での長期滞在、そして永住志向が進んでいる中でも、結婚相手を選ぶ場合、同じ日系ブラジル人が望ましいと考えている割合が高い。また、「相手の国籍・出自にこだわらない」と答えている人の場合、日系ブラジル人でも良いというニュアンスが含まれていると推測できる。なぜなら、本調査では、在日ブラジル人の既婚者のうち、8割程度の配偶者がブラジル国籍者であり、また、「日本人の配偶者等」及び「定住者」の在留資格を得るためには日系3世までという条件が必要とされるからである。

このような志向性は、ブラジルにおける日系人社会でも認められる。ブラジルへの日本移民が100周年を迎える今日でも、日系人同士の結婚が半数近くを占めている。たまたま育った環境から日系人を配偶者として選んだに過ぎないとも言えるが、移民家庭で育った場合、出身国の文化や習慣が代々受け継がれ、本人のアイデンティティに強く影響すると考えられる。

53 あなたは次にあげる集団や地域に対してどの程度愛着を感じますか

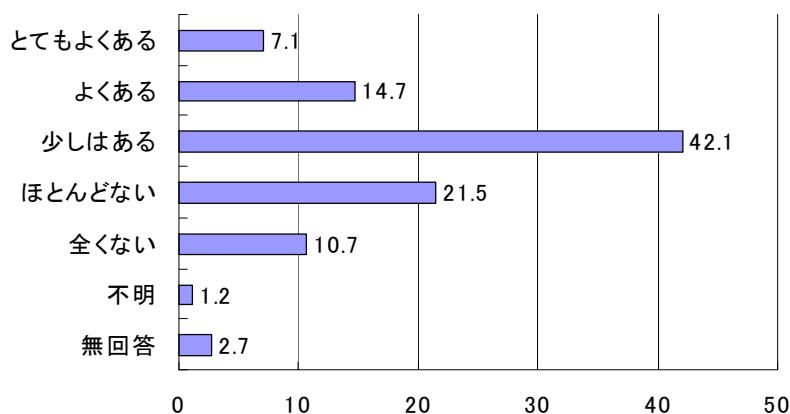
表 集団や地域への愛着 (N=974)

	非常に感じる	どちらかといえば感じる	どちらともいえない	どちらかといえば感じない	まったく感じない	不明・無回答
ブラジル	37.6	38.7	11.0	2.7	0.9	9.1
ブラジルでの故郷	27.0	32.8	17.4	6.6	6.1	10.3
日本に住むブラジル人	6.9	43.2	29.3	8.0	2.1	10.6
日本	15.9	51.1	16.3	4.5	1.4	10.7
静岡県	17.8	48.7	19.4	3.2	1.1	9.9
現在居住する地域	20.4	48.7	17.5	3.1	0.9	9.4

「ブラジル」に愛着を感じると答えている人がもっとも多く、「非常に感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせると76%であった。同時に、日本での生活において、「日本」や「静岡県」に関しても、全体的に6割以上が愛着を感じていると答えている。このように、日本滞在が長期化するにつれて、日本での生活に適応度が増してくる。しかし、同時に出身国であるブラジルに対する愛着は依然として強く残っていることがわかる。

54 あなたは普段の生活の中で、日本人に差別されていると感じることはありますか

図 被差別意識



日本人に差別されていると答えた人は、「とてもよくある」と「よくある」を合わせると22%であった。「少しはある」(42%)と答えた人を含めると、6割以上が日本人に差別されていると感じていることになる。一方、「全くない」と答えている者は11%しかいなかった。このように、日本人から差別されていると感じる人が多いということが、ブラジル人の日本社会への適応を阻むことにつながっているのではないかと考えられる。

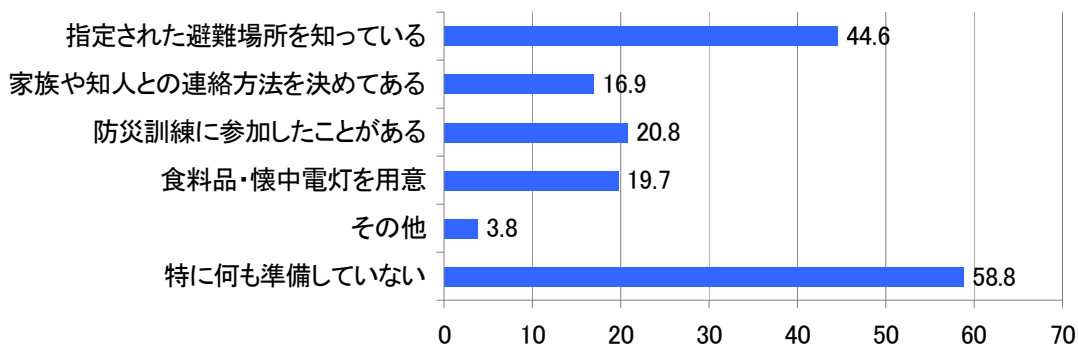
【⑤防災】

静岡県では県民の防災意識高揚に努めているが、ブラジル人の防災意識は必ずしも高くはないことがこの調査から浮き彫りになった。日頃の防災対策については、ほぼ6割が特に何も準備していないと回答している。

一方、防災訓練への参加については、参加したくないとの消極的意見の者はごくわずかで、地域での参加を希望する者がほぼ5割、企業での参加を希望する者がほぼ3割であった。実際には地域で開催される防災訓練へのブラジル人の参加はまだ少数だが、情報伝達の工夫や参加を促すしかけづくりによって、ブラジル人の参加が増える可能性が示唆されている。

55 あなたは地震などの緊急時に（防災）対策をしていますか（○はいくつでも）。

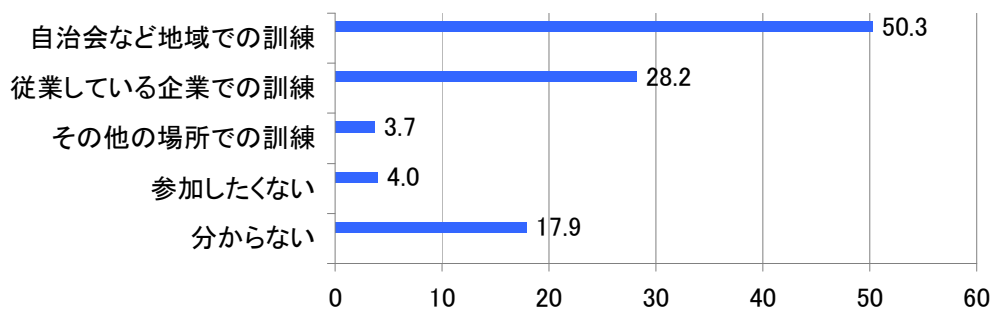
図 日頃の防災対策（N=948）



日頃の防災対策についてたずねたところ、特に何も準備していないという者がほぼ6割に達し、もっとも多かった。指定された避難場所を知っている者は45%いたが、それ以外の日常的な対策はほとんどなされていないことがわかる。防災訓練への参加経験を持つ者は2割であった。

56 あなたはどこでなら防災訓練に参加したいですか。

図 防災訓練への参加希望（N=948）



自治会など地域での防災訓練に参加を希望する者が5割を超えてもっとも多かった。ついで従業している企業での訓練への参加希望が3割弱となっている。参加したくないという者は4%でごくわずかであった。

【⑥日本語学習】

ブラジル人が日本の社会で安定した収入と生活基盤を得る上で、受け入れ社会の言語である日本語の習得は重要な課題である。この調査では、日本語能力と日本語の必要性の認識、そして学習希望について調べた。

日本語会話能力については、ほぼ4人に1人がまったくできない状態で来日していた。あまりできない状態の者まで含めると、ほぼ4人に3人が日本語での会話ができないまま来日していたことになる。

現在の日本語会話能力については、自己評価は高くなる。完全にできるとする者は1割に満たないが、「まあまあできる」という自己評価まで含めると、4人に3人が自分の日本語会話能力を肯定的に評価している。この調査では客観的なテストによって日本語能力を測定しているわけではないので、実際のところ、日本語能力がどの程度なのかを明らかにするのは困難である。しかし、同じ基準で自己評価がなされているにもかかわらず、日本語の読み書きについては自己評価が一段と低くなる点は注目すべきである。

ひらがな・カタカナの読み書きについては、「ほぼ完全にできる」、「わりとできる」、「まあまあできる」が、読み書きともにそれぞれほぼ2割ずつとなっている。書く力は読む力よりも劣るが、読みについても書きについても、ほぼ6割近くが「まあまあできる」までの肯定的自己評価を下している。

それに対し、漢字の読み書きでは自己評価も厳しくなる。読み書きともに、「まあまあできる」まで含めても肯定的自己評価は2割前後となっており、漢字の含まれた日本語の文章は、ブラジル人向けのコミュニケーションの手段としてほとんど機能しないことが推測される。

日本語の必要性については、日本での生活、仕事、日本人との人間関係形成等の多様な理由により、極めて強く認識されている。「ポルトガル語で十分に暮らせる」、「じきに帰国する」という理由で日本語の必要性を感じないとする者は、いずれも0.5%しかいなかった。

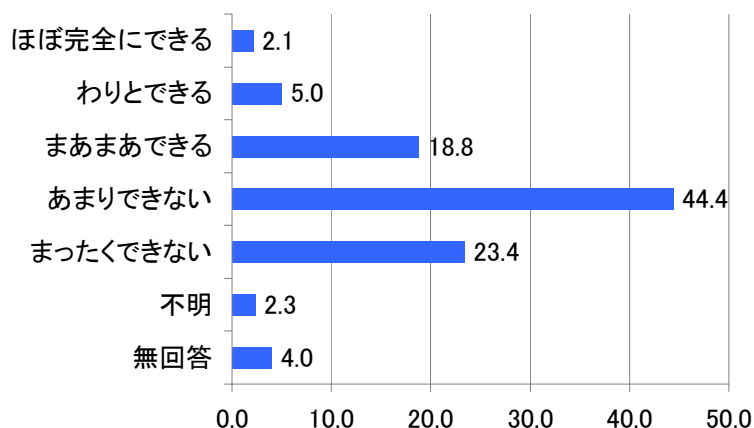
しかしながら、現在日本語を学習している者は14%にとどまり、6割近くは日本語を「学びたいが時間・機会がない」と回答している。ここでも「日本語はできないが学習は不要」と考える者は1%にも満たない。日本語ができない者は日本語学習の必要性を強く意識しているが、時間や機会がない、という構図が浮かび上がる。

今後の日本語学習希望については、「機会があれば学習したい」とする者が半数を占める。実際にはその機会が持てないまま、学習しない状態が続くことが心配される。一方、「ぜひ学習したい」という強い学習希望を持つ者も3割近い。

今後の学習方法としては、公的機関での（集团的）学習と並んで、自宅等での個人的レッスンを求める声も強い。日本語レベルの多様性、学習ニーズの多様性、生活・就労形態の多様性に応じて、柔軟でバラエティに富んだ学習機会の提供が求められていると考えることができる。

57 あなたははじめて日本に来る前に、日本語での会話をどの程度できましたか（○は1つ）。

図 来日以前の日本語会話能力（N=1922）



来日前の日本語での会話能力については、「あまりできない」が44%でもっとも多かった。「まったくできない」との回答も23%を占めていた。「まったくできない」と「あまりできない」という否定的な自己評価を合計すると、68%に達している。つまり、ほぼ7割が日本語会話能力が乏しい状態で来日していることがわかる。

58 あなたは、現在日本語がどの程度できますか。当てはまるものにそれぞれ○をつけてください。

表 現在の日本語能力（N=1922）

	ほぼ完全にできる	わりとできる	まあまあできる	あまりできない	まったくできない	不明・無回答
日本語で会話する	7.3	27.8	40.0	16.5	4.4	4.0
ひらがな・カタカナ読める	22.6	22.9	21.0	10.5	15.6	7.4
漢字読める	2.7	5.3	16.1	28.8	38.6	8.5
ひらがな・カタカナ書く	18.2	18.6	22.1	13.4	19.7	8.0
漢字書く	2.5	4.1	11.0	23.5	51.0	7.8

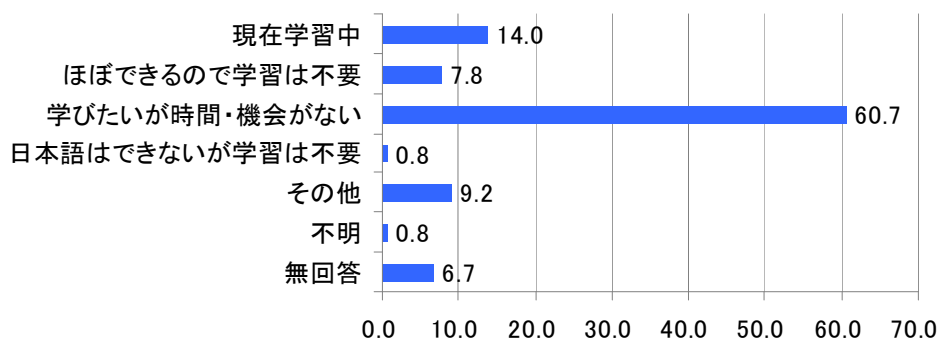
次に現在の日本語能力について多角的視点からの自己評価をたずねてみた。日本語での会話については、「ほぼ完全にできる」から「まあまあできる」までを合計すると75%に達する。ただし、「まあまあできる」が40%でもっとも多い点に注意を払う必要がある。「まったくできない」との回答は4%のみだったが、「あまりできない」も含めた否定的評価は2割を超える。

ひらがな・カタカナの読み書きについては、ほぼ同様の傾向が認められた。限られた数の文字の判読であるため、2割前後が「ほぼ完全にできる」と回答し、さらに2割前後が「わりとできる」と答えている。「まあまあできる」まで含めると6割前後に及ぶ。

それに対して、漢字の読み書きについては自己評価が著しく低くなる。「ほぼ完全にできる」との回答は2~3%、「わりとできる」でも4~5%にとどまる。「まあまあできる」まで含めても、2割前後でしかない。漢字交じりの文章を読める力を身につけた者は極めて限定されている。

59 あなたは現在日本語を学習していますか（○は1つ）。

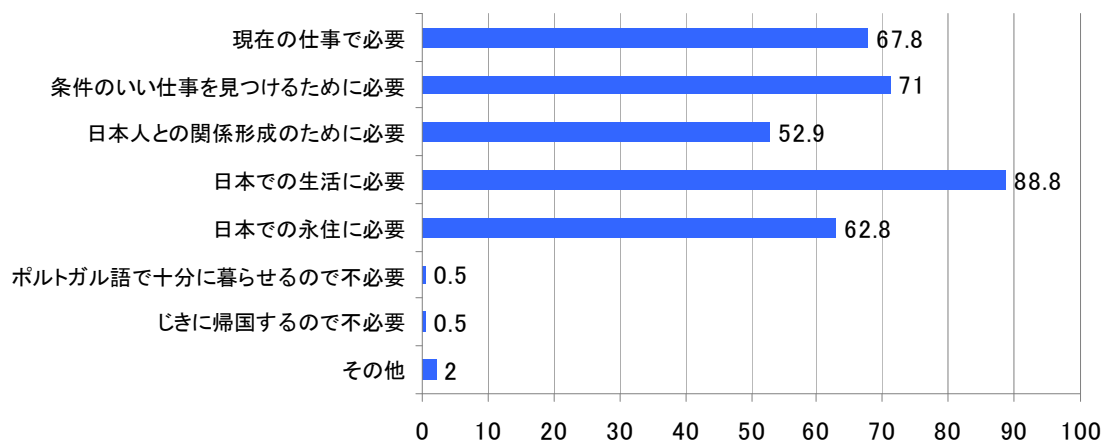
図 現在の日本語学習状況（N=974）



現在の日本語学習状況については、「学びたいが時間・機会がない」との回答が 61%で群を抜いてもっとも多かった。現在学習している者は 14%だった。一方、学習は不要とする者についてみると、「ほぼできるので学習は不要」との回答は 8%、「日本語はできないが学習は不要」とする者は 1%だけだった。

60 日本語の必要性についてどのように考えますか（○はいくつでも）。

図 日本語の必要性に対する認識（N=974）

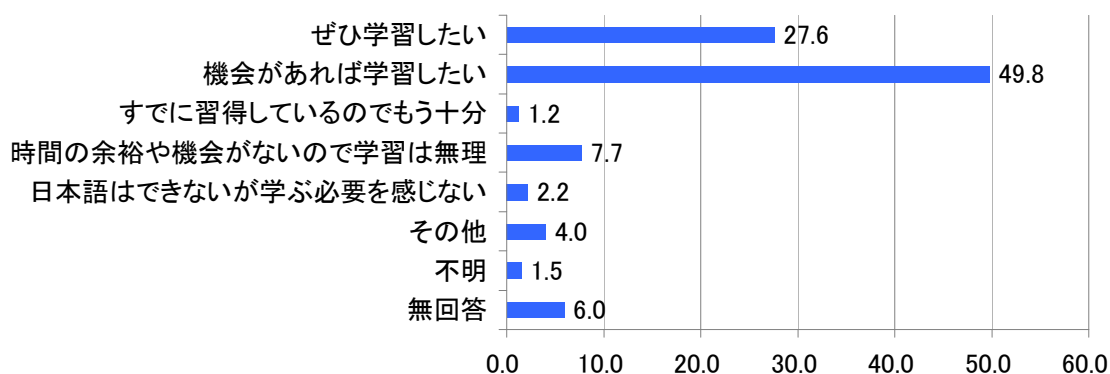


日本語の必要性については、多角的な理由から必要性が強く認識されている。「日本での生活に必要」との回答が 89%でもっとも多かったが、「条件のいい仕事を見つけるために必要」が 71%、「現在の仕事で必要」が 68%と、仕事との関係で必要性を認識する者が多い。また、「日本での永住に必要」(63%)、「日本人との関係形成のために必要」(53%)のように、日本の社会でより根付いた生活をする上での必要性を指摘する回答も多かった。

今回の調査でなにより注目すべきは、「ポルトガル語で十分に暮らせるので不必要」、「じきに帰国するので不必要」という回答が、いずれも 0.5%しかなかった点である。1990 年代以降のブラジル人コミュニティ形成により、ポルトガル語だけで生活できる環境ができているとの指摘は多いが、だからといって日本語が不必要と考えられているわけではないことがわかる。

61 あなたは今後日本語を学習したいと思いますか（○は1つ）。

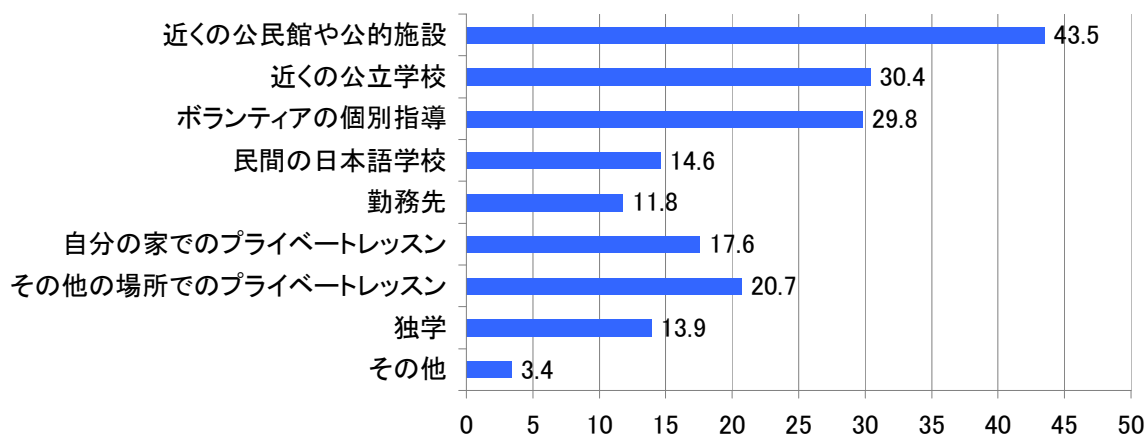
図 今後の日本語学習の意思（N=974）



今後の日本語学習については、「機会があれば学習したい」が50%でもっとも多かった。「ぜひ学習したい」という強い学習希望を持つ者が28%でそれに続く。「日本語はできないが学ぶ必要を感じない」との回答は2%であり、先の間60の結果と対応関係にある。

61-1 問61で1か2を選んだ方におうかがいします。あなたは今後どのようにして日本語を学習したいですか（○はいくつでも）。

図 希望する日本語学習方法（N=974）



日本語を学習したいという者に対して今後の日本語学習方法についてたずねたところ、「近くの公民館や公的施設」が44%でもっとも多かった。次は「近くの公立学校」で30%が希望している。このように身近な公的機関での学習を希望する声が多いが、他方で「ボランティアの個別指導」も30%に達するし、「その他の場所でのプライベートレッスン」（21%）や「自分の家でのプライベートレッスン」（18%）のように、個別的な指導を求める声も強い。

【⑦子どもの教育】

子どもの性別では、第一子・第二子共に男女の比率に大きな偏りは見られない。出生年は比較的近年が多く、第一子では1995年～1999年生まれが約3分の1、続いて1990年～1994年生まれが約4分の1存在する。1995年～2007年までの間に生まれた第一子は全体の半数弱（48%）を占める。つまり、約半数が小学生及びそれよりも小さい子どもである。第二子では、やはり1995年～1999年生まれが約3分の1と最も多く、続いて2000年～2004年生まれが多い（29%）。第二子では1995年～2007年生まれが全体の7割（71%）に達する。

同別居の有無では、第一子・第二子共に同居の割合が高い。第一子で「同居」は9割（90%）、第二子では8割（81%）である。「国内で別居」、「母国に居住」している子どもの割合は第一子で多い。

生まれた場所をみると、第一子で「日本で出生」した子どもの割合は第二子より低く28%である。母国他で生まれ「日本に入国」した第一子は半数を超えた（55%）。一方、第二子では「日本で出生」と「日本に入国」の割合はほぼ4割で同レベルにある。

母国他で生まれ日本に入国した子どもの初入国時の年齢は、第一子・第二子共に幼少期に集中している。0～4歳で入国したのは、第一子で4割弱（39%）、第二子で4割強（44%）である。5～9歳で入国したのは、第一子・第二子共に3分の1を占めている（33%、34%）。

子どもの就学状況をみると、第一子では「就学中」が最も多く約7割を占めている（73%）。ついで「卒業」（7%）、「中退」（6%）、未就学（5%）である。第二子では「就学中」は7割弱（67%）となり、「未就学」（17%）の割合が高くなる。「学校に行っていない」と回答した者は、第一子で2%、第二子で1%であった。

子どもの就学先（卒業した子どもについては、最後に在籍した学校）についてみると、第一子・第二子共に「日本の小学校」が最も多く、3分の1程度である（それぞれ34%、37%）。第一子は続いて「日本の中学校」が5分の1程度（21%）、「日本の高校」も1割弱（7%）就学している。第二子では「日本の中学校」（14%）、「日本の保育園」（9%）という回答が多い。ブラジル人学校、ブラジル人の託児所、外国人学校に就学している（いた）者の割合は5%かそれ以下であり、比較的低くなっている。これは、今回の調査では、回答者の半数近くが日本の小中学校に子どもを通わせている保護者であることに起因していると考えられる。

子どもの将来の進路希望では「日本で高等教育を受けさせたい」が最も多く14%である。ついで「ブラジルで高等教育を受けさせたい」が11%となっている。「高等教育よりも早く働いて欲しい」は0.6%と非常に低かった。概して教育志向が強いと言えよう。

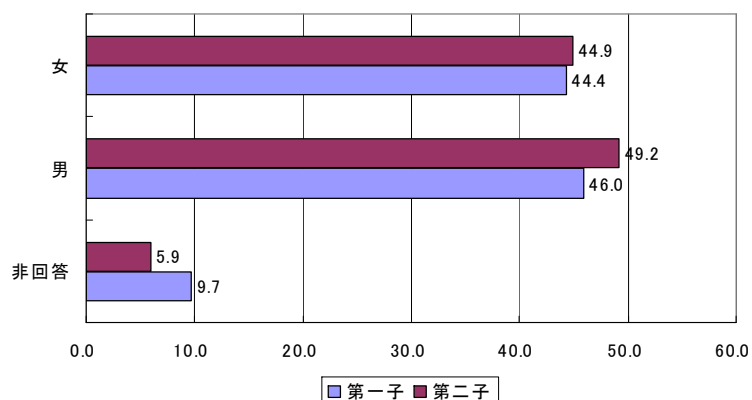
子どもの教育についての希望では、さまざまな政策的対応が望まれていることが示された。もっとも多かったのは「学校のいじめ対策」で半数を超えた（57%）。その他、「国際理解・人権教育の推進」（51%）、「親の経済的負担への公的補助」（47%）、「日本語学習の推進」（46%）、「日本の教育制度・入試に関する説明会」（43%）、「外国人の教育にたずさわる先生の増員」（40%）、「母国語・母国文化の学習」（38%）、「子どものこと全般について相談できる場所の設置」（35%）、という結果になっており、日本に長期滞在するにしろ、母国に帰国する見込みであるにしろ、子どもの教育への政策的対応に関するニーズは高い。

62 あなたのお子さんについて、お聞きします。お子さんが2人以上いる場合、上の2人についてお答えください。

第一子と第二子の属性²

(1) 性別

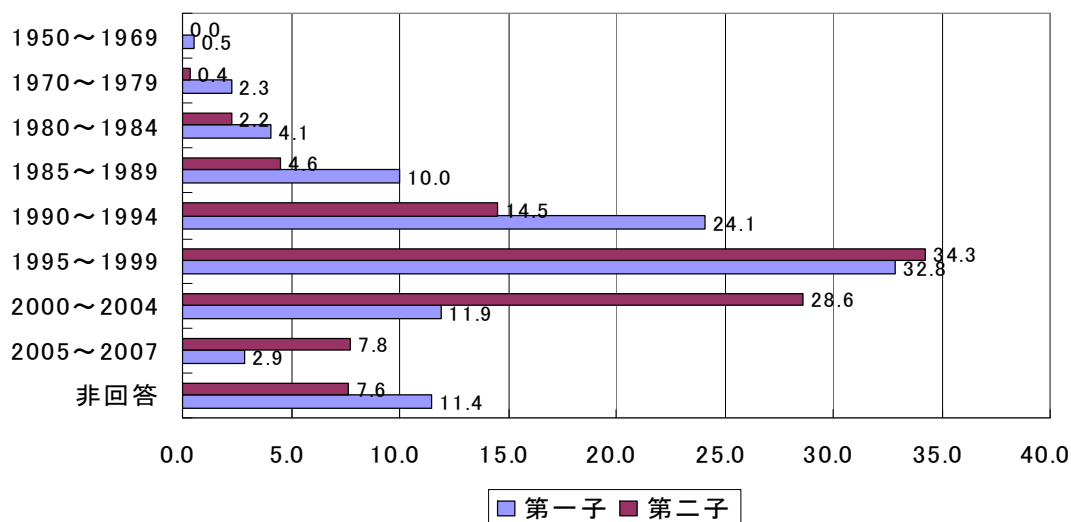
図 子どもの性別（第一子N=1364, 第二子N=811）



第一子の性別は、女性が44%、男性が46%である。第二子の性別は、女性が45%、男性が49%となっている。第一子・第二子共に男女の偏りは特に見られない。

(2) 出生年

図 子どもの出生年（第一子 N=1364, 第二子 N=811）

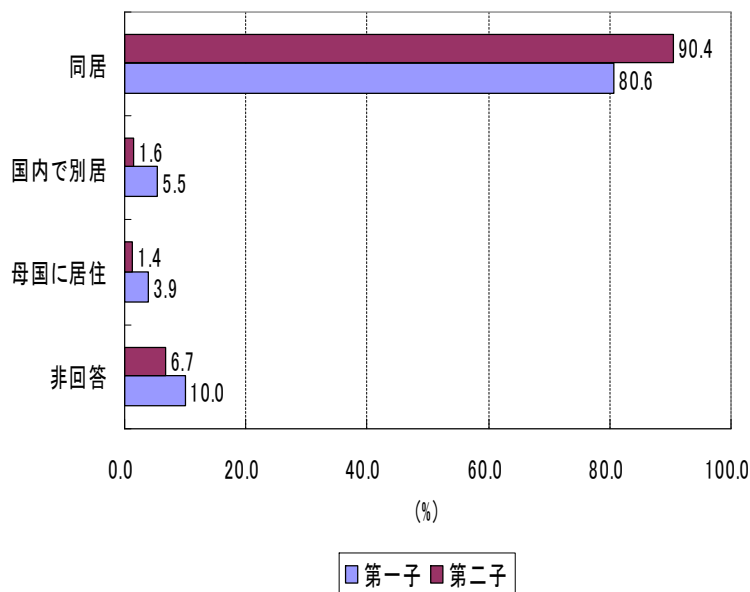


第一子の出生年をみると、1995年～1999年生まれがもっとも多く、約3分の1を占める。ついで1990年～1994年生まれが多く、約4分の1を占める。両者合わせると1990年代生まれは全体の半数を超える（57%）。第二子も1995年～1999年生まれが3分の1ともっとも多い。ついで2000年～2004年生まれの29%となっている。

² 第一子の割合を計算する際に用いた母数は特に注意書きがない限り、一人以上同居者がいる者である（1364人）。第二子の割合を計算する際に用いた母数は、二人以上同居者がいる者である（811人）。

(3)同別居の有無

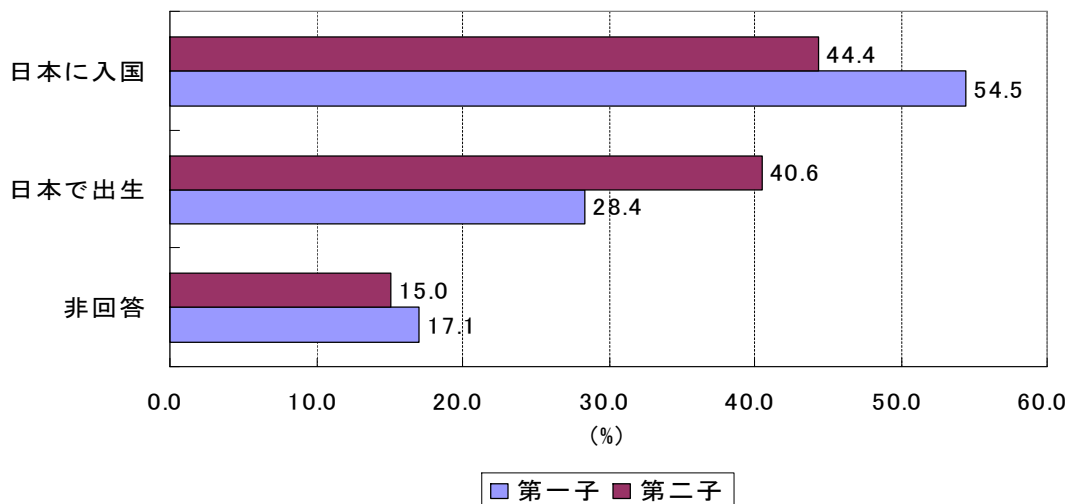
図 同別居の有無(第一子 N=1364, 第二子 N=811)



第一子・第二子共に居住形態では「同居」がもっとも多く、第一子で9割、第二子で8割である。国内で別居している子ども、母国に居住している子どもは第一子に多い。

(4)生まれた場所

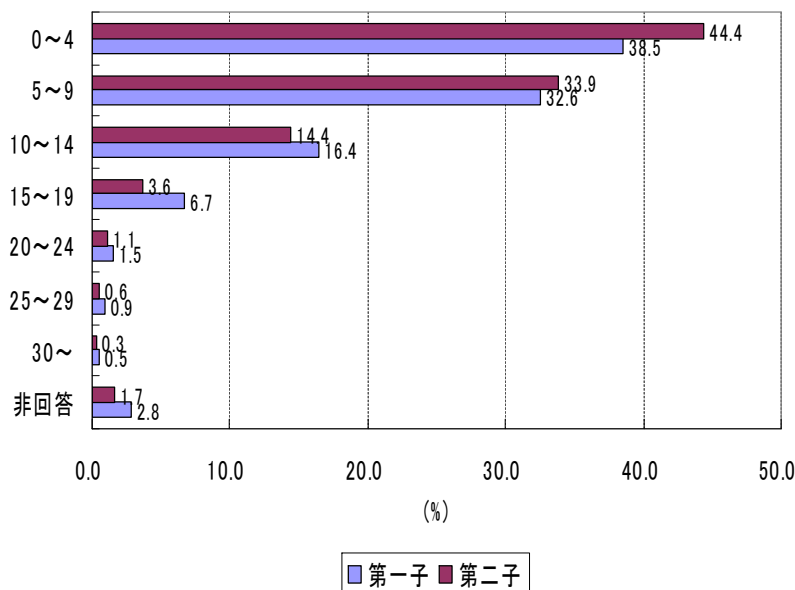
図 生まれた場所(第一子 N=1364, 第二子 N=811)



第一子では日本で出生した子ども(28%)よりも、出生後に日本に入学した子ども(55%)の方が圧倒的に多い。一方、第二子では、日本で出生した子どもが41%、出生後に日本に入学した子どもが44%とほぼ同レベルにある。

(5)初入国時の年齢³

図 初入国時の年齢(第一子 N=743, 第二子 N=360)

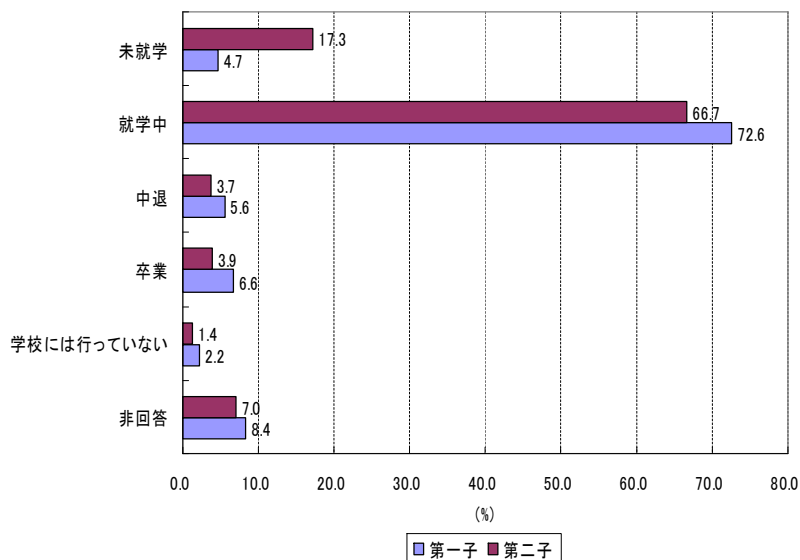


初入国時の年齢は、第一子・第二子共に比較的幼少期が多い。0~4歳で初入国したのは、第一子で39%、第二子で44%である。5~9歳で入国したのは、第一子で33%、第二子で34%となっている。

63 お子さんの就学状況について、当てはまるものを1つだけ○をつけてください。

第一子と第二子の就学状況

図 就学状況(第一子 N=1364, 第二子N=811)



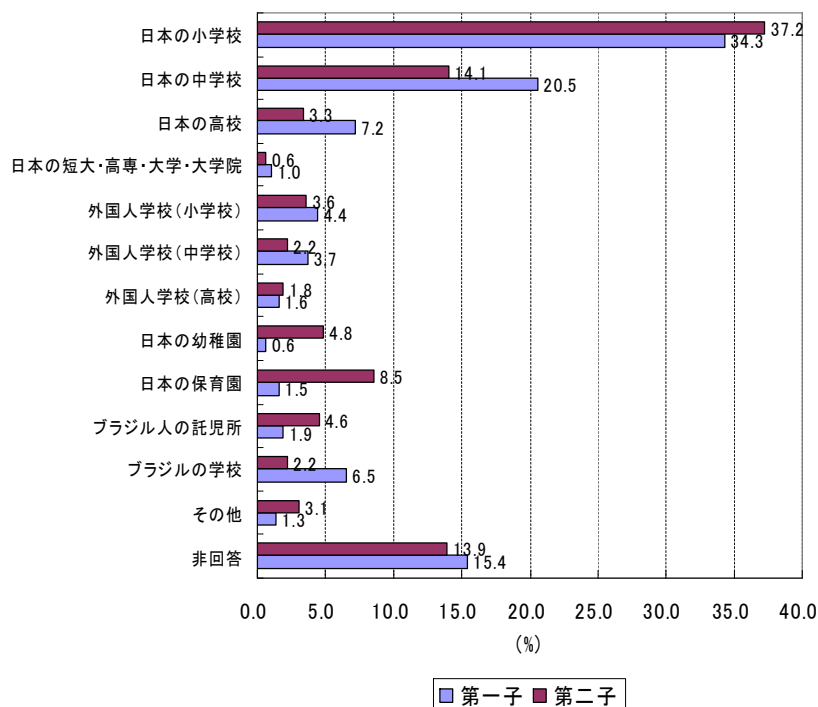
第一子を見ると「就学中」がもっとも多く約7割を占めている(73%)。ついで「卒業」(7%)、「中退」(6%)、「未就学」(5%)の順である。一方、第二子では「就学中」が7割弱(67%)、「未就学」が17%と未就学の割合が高い。「学校に行っていない」と回答した者は、第一子で2%、第二子で1%であった。

³ 母数は第一子の場合、1人以上の子どもと同居しており、かつ、問62(5)で「日本で出生」に○をつけなかった者である。第二子の母数は、2人以上の子どもと同居しており、かつ、問62(5)で「日本で出生」に○をつけなかった者である。

64 お子さんの就学している学校について、当てはまるものに1つだけ○をつけてください。卒業したお子さんについては、最後に在籍した学校に1つだけ○をつけてください。

第一子と第二子の就学先

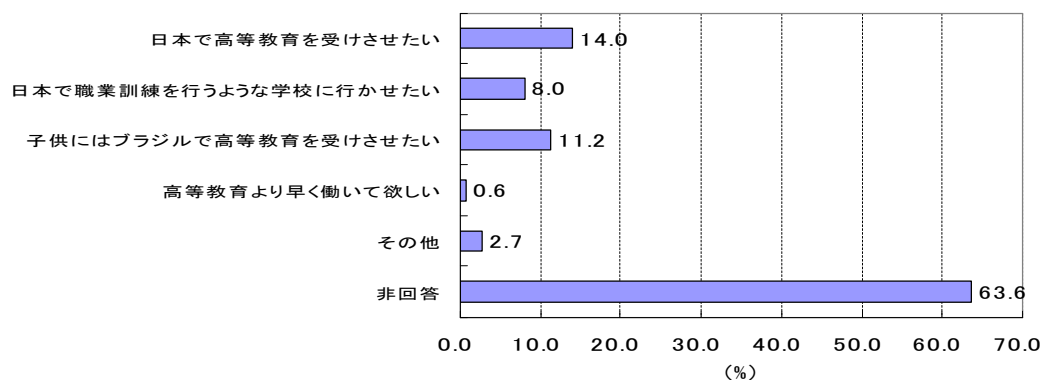
図 子供の就学先(第一子 N=1364, 第二子 N=811)



子どもの就学先は、第一子・第二子共に「日本の小学校」がもっとも多く、それぞれ34%、37%である。第一子は「日本の中学校」(21%)に就学中の者も多い。第二子は、「日本の中学校」(14%)、「日本の保育園」(9%)の割合が高い。ブラジル人学校、外国人学校に就学している者の割合は比較的低い。

65 お子さんの将来の進路に関する希望についておうかがいします。当てはまるものに○をつけてください。〈○は1つ〉

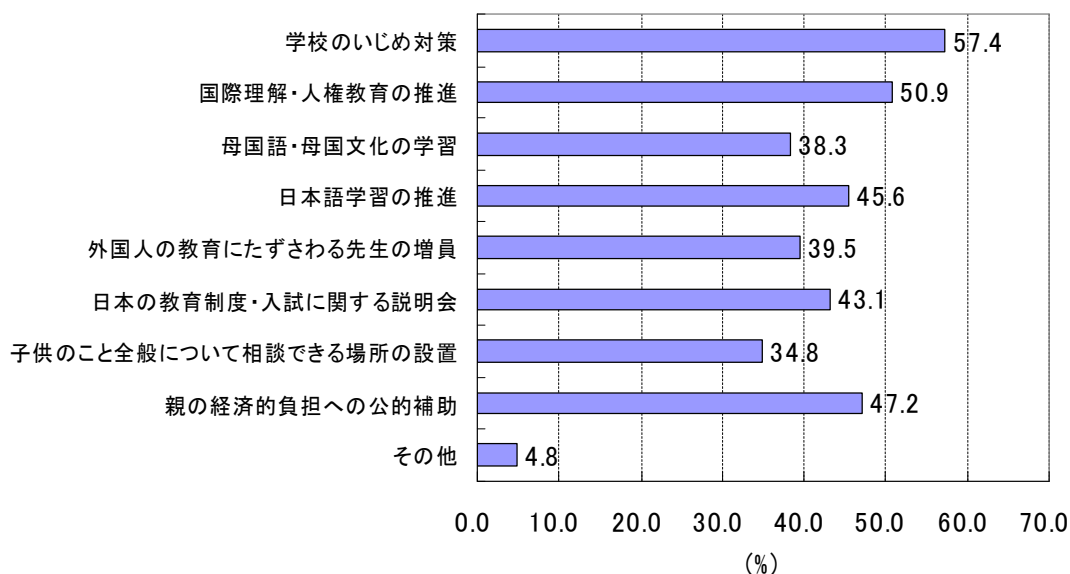
図 子供の将来の進路希望(N=1922)



将来の進路希望では「日本で高等教育を受けさせたい」が14%でもっとも多い。ついで「ブラジルで高等教育を受けさせたい」が11%で続く。「高等教育よりも早く働いて欲しい」と回答した者は非常に少なかった(0.6%)。

66 お子さんの教育について、あなたが望むことは何ですか（〇はいくつでも）。

図 子どもの教育についての希望(N=974)



もっとも多かったのは「学校のいじめ対策」で半数を超えた（57%）。ついで「国際理解・人権教育の推進」が約5割（51%）であった。「親の経済的負担への公的補助」と「日本語学習の推進」も半数弱の希望がみられた（それぞれ47%、46%）。「日本の教育制度・入試に関する説明会」も43%と希望が多い。「外国人の教育にたずさわる先生の増員」（40%）、「母国語・母国文化の学習」（38%）に関する希望がそれに続く。「子どものこと全般について相談できる場所の設置」に対する希望も約3割あった（35%）。

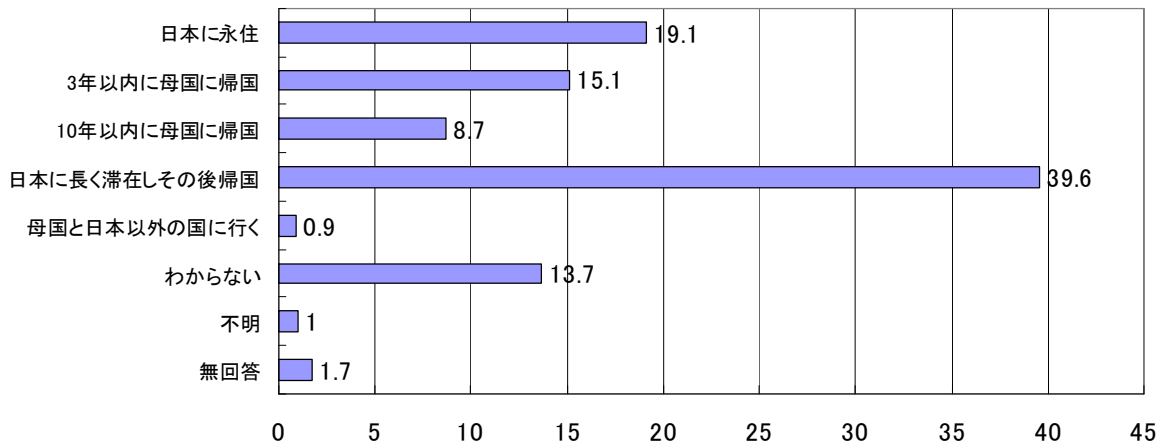
【⑧母国との関係】

日本での生活において、今後の予定とブラジルとのつながりを調べた。まずは、今後の予定をどのように考えているのかを聞いたところ、はっきりと永住志向であると答えている 2 割程度の人を含め、長期滞在意識を持っている人が多いことが明確になった。また、日本とブラジルで、どちらに生活基盤を置いているのかを検討するため、日本での貯蓄とブラジルへの送金について聞いたところ、40%程度が「貯蓄」も「送金」もしていないと答えている。貯蓄をしていない割合が高いことは、短期間でブラジルへ帰国する予定がないという側面と、日本での生活に費用がかかるため、結果的に貯蓄の余裕がない状況である、という解釈ができる。

また、全体の半数近くは、金額には差はあるがブラジルへ送金しているという実態から、本人の日本での長期滞在化が進み、日本に生活基盤が移りつつあることが明確になっているにもかかわらず、ブラジルの家族との関係や本人の帰国の期待があるため、本国との経済的なつながりが何らかの形で存続していることがわかる。

67 あなたは、今後の日本での滞在をどのようにお考えですか

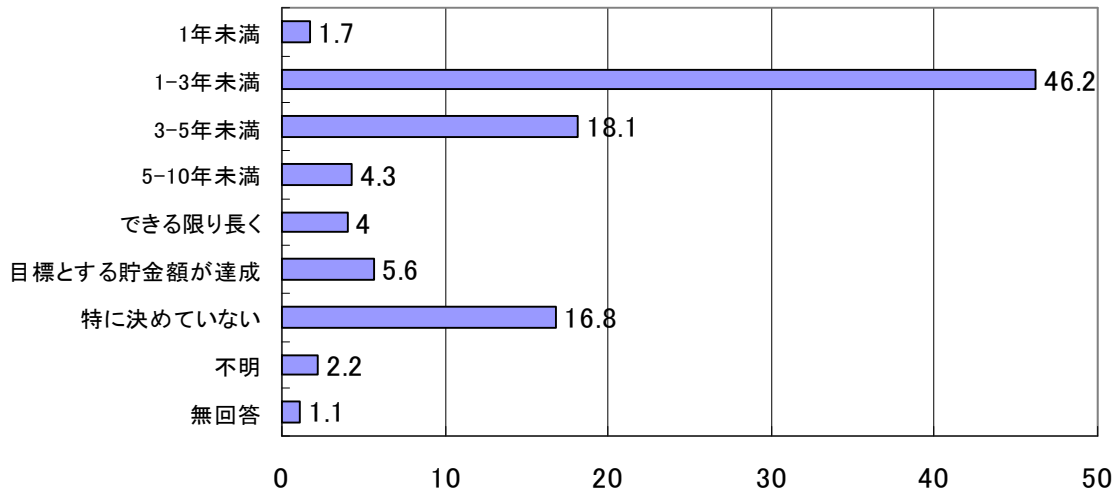
図 今後の日本での滞在予定



今後の滞在予定については、19%が「日本に永住する」と答えており、40%が「日本に長く滞在する」と答えている。さらに「わからない」の14%を含めると、7割以上が短期間でブラジルへ帰国しようという意識は持っていないと言える。一方、短期滞在意識で「3年以内に母国へ帰国する」と答えているのは15%であった。ここから、日本での長期滞在意識を持っている人が多数を占めることがわかる。特に、明確な永住意識を持つ者が5人に1人いる点は注目に値する。

68 あなたは日本に来る前、どのくらい日本に滞在したら帰国しようと考えていましたか

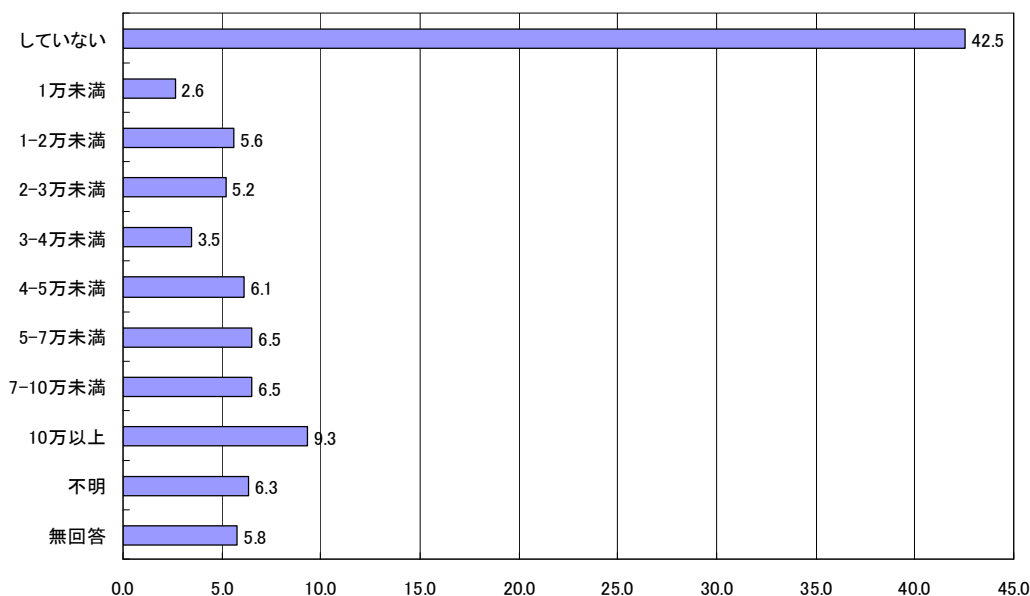
図 来日前の滞在予定期間 (N=948)



来日する前の考えでは、3年未満で帰国する予定であったと答えたのが、「1年未満」と「1-3年未満」を合わせると48%であった。つまり、比較的短期間での帰国を予定していた者がほぼ半数いたことがわかる。一方、「出来るだけ長く」、「特に決めていない」の答えを合わせると、ほぼ2割程度である。来日当初の意識と日本滞在期間の現状とのズレから明らかなように、来日後の仕事や生活の実態が変化し、日本滞在の長期化へと意識が変化することがうかがえる。生活基盤が日本へと移り、ブラジルへの帰国を実現するのが困難になっていると考えられるのである。

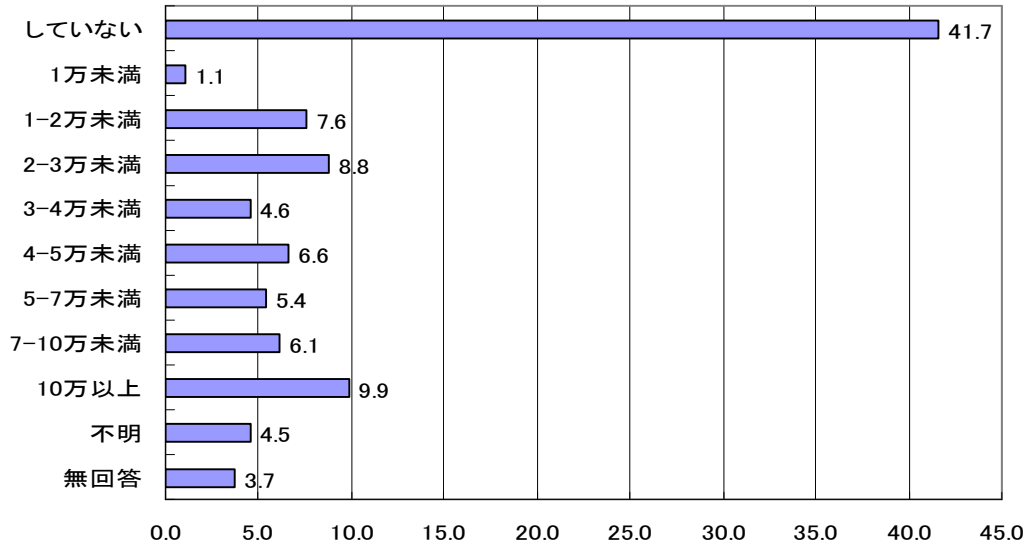
69 あなたのご家庭での貯蓄額と母国への仕送り額についておうかがいします

図 1ヶ月あたりの貯蓄額 (N=948)



日本での生活で「貯蓄をしていない」と答えているのが43%であった。月「3万円以下」の貯蓄をしていると答えたのが13%であり、「10万円以上」が9%であった。

図 1 か月あたりの仕送り額 (N=948)



母国への仕送りでは、「していない」と答えたのが 42%であった。一方、「10 万以上」送金しているのが 10%であった。それ以外のほぼ 4 割は、金額には差があるが、ブラジルへ送金していると答えている。